

4

ハードウェアについて

本章では、各ハードウェアと本製品に接続できる周辺機器について説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1	周辺機器の取り付けについて	60
2	セレクトابل機器の差し替え	61
3	フロッピーディスクドライブ	63
4	CD-ROM ドライブ	66
5	PC カード	70
6	電話回線への接続	74
7	LAN の接続	76
8	USB 機器	80
9	IEEE1394 (i.LINK) 機器	81
10	プリンタ	83
11	その他の機器	85

1 周辺機器の取り付けについて

周辺機器の取り付けや使用方法については、それぞれの周辺機器に付属の説明書をあわせてお読みください。

取り付け/取りはずしの方法は周辺機器によって違います。各項を読んでから作業をしてください。



注意 ・パソコンが動作中に着脱することが認められていない周辺機器を接続する場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。



お願い

- ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ・湿度やホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- ・静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- ・本製品を改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

● パソコン本体へのケーブルの接続

次の点に注意して、接続してください。

パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせる

ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締める



お願い

- ・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

周辺機器を使用するときは、このほかに作業が必要なことがあります。また、その必要な作業は、使用するシステムで異なることがあります。それぞれの周辺機器に付属の説明書をご覧ください。

☞ 『周辺機器に付属の説明書』

② セレクタブル機器の差し替え

セレクタブルベイには、次にあげる機器を取り付けることができます。

- ・CD-ROM ドライブ
- ・フロッピーディスクドライブ
- ・CD-RW ドライブ（別売り）
- ・DVD-ROM ドライブ（別売り）
- ・スーパーディスクドライブ（別売り）

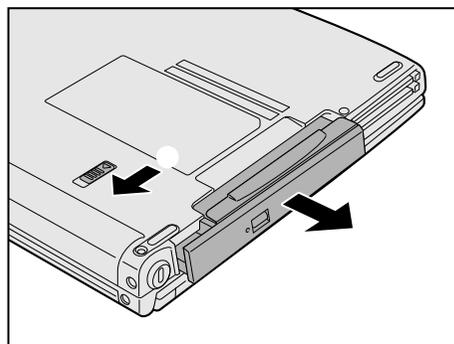
いずれもご使用にならないときは、セレクタブルベイにウェイトセーバを取り付けておきます。



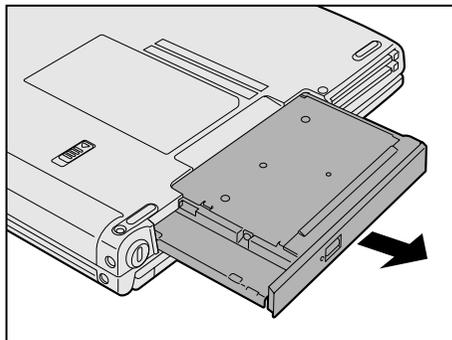
- 注意**
- ・安全のために、セレクタブルベイにはセレクタブル機器またはウェイトセーバのいずれかを取り付けてお使いください。
 - ・次の状態のときには、セレクタブル機器の差し替えを行わないでください。パソコン本体あるいはセレクタブル機器が故障する場合があります。また、データが消失するおそれがあります。
 - ・電源が入っているとき
 - ・スタンバイ状態
 - ・休止状態（ハイバネーション）

● セレクタブル機器の差し替え

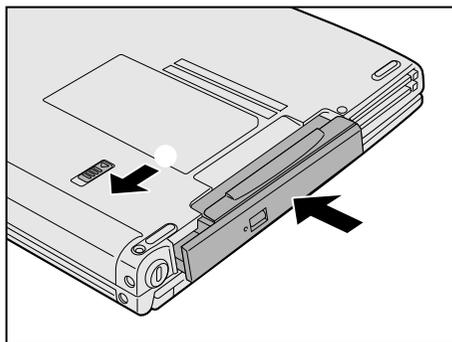
- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 パソコン本体の電源を切る
☞ 電源の切り方について ☞ 「2章 3 電源を切る」
- 3 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブルをはずす
- 4 パソコン本体を裏返す
 ・パソコン本体を裏返すときは、衝撃を与えないよう注意してください。
お願い
- 5 セレクタブルベイロックを解除し、セレクタブルベイを引き出す
セレクタブルベイから機器が少し出てきます。



- 6** セレクタブル機器をしっかりとつかんで引き出す
装置は水平に引き出してください。



- 7** セレクタブルベイロックを解除し、セレクタブルベイに取り付ける機器を裏返し、しっかりと差し込む



- 8** セレクタブルベイロックがロック位置になっていることを確認する

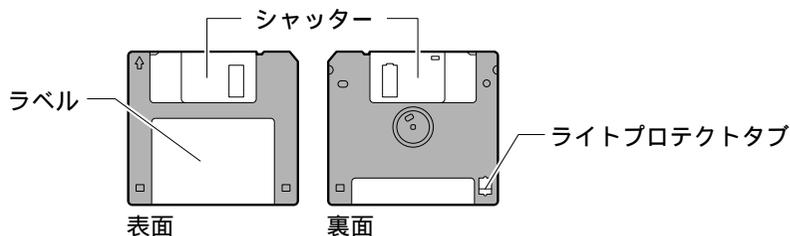
3 フロッピーディスクドライブ

本製品に同梱されているフロッピーディスクドライブは、セレクトابلベイに取り付けて使用できます。

☞ セレクトابلベイへの取り付け ☞ 「本章 2 セレクトابل機器の差し替え」

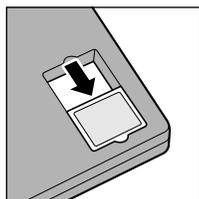
1 フロッピーディスク

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。



ライトプロテクトタブの状態、次のようになります。

● ライトプロテクトタブの状態

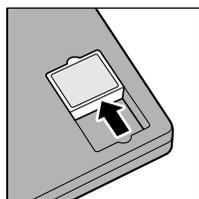


書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。

この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。

データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。

この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

☞ フロッピーディスクの使用について ☞ 「日常の取り扱い-フロッピーディスク」

② フロッピーディスクのセットと取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

● フロッピーディスクのセット

- 1 フロッピーディスクの隅に印刷されている矢印の向きに合わせて挿入する
「カチッ」と音がするまで挿入します。正しくセットされると取り出しボタンが出てきます。

● フロッピーディスクの取り出し



お願い

・セレクトラブルベイ動作ランプ  が点灯中は、フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れることがあります。

- 1 取り出しボタンを押す
フロッピーディスクが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

③ フロッピーディスクのフォーマット

新品のフロッピーディスクを使うときには、使用するシステムにあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

新品のフロッピーディスクには、システムの種類別にフォーマットされているものと、フォーマットを行わずに販売されているものがあります。新品のフロッピーディスクを使用する場合は、「Windows フォーマット済み」かどうか確認してください。フォーマットされていないフロッピーディスクは、必ずフォーマットを行なってください。他のシステム上でフォーマットされたフロッピーディスクも、Windows 上でフォーマットすることにより、Windows で使用することができます。



お願い

・フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。



- ・他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものがあります。
- ・2HD フロッピーディスクを2DD タイプでフォーマットしたり、またその逆でのフロッピーディスクの使用はできません。正しくフォーマットされているフロッピーディスクを使用してください。
- ・フォーマット形式は、2DD の場合は720KB、2HD の場合は1.44MB のみになります。

- 1 フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 デスクトップ上の [マイ コンピュータ] アイコンをダブルクリックする
- 3 [3.5 インチ FD (A:)] のアイコンをクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] のアイコンが選択され、アイコンの色が反転します。
- 4 [ファイル (F)] メニューの [フォーマット (M)] を選択する
- 5 フォーマット方法を選択し、[開始] ボタンをクリックする
未フォーマットのフロッピーディスクを使用して、フォーマットや起動ディスクの作成をする場合、かなり時間がかかることがあります。



フォーマットが開始されます。

フォーマットが終了すると、フロッピーディスクの情報が表示されますので、確認してください。

- 6 [フォーマット結果] の内容を確認し、[閉じる] ボタンをクリックする
これで、フォーマットは完了です。
他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実施します。
フォーマットを終了する場合は、[閉じる] ボタンをクリックします。

4 CD-ROM ドライブ

本製品のセレクトابلベイには標準で CD-ROM ドライブが用意されています。フロッピーディスクドライブ、または別売りの CD-RW ドライブ / DVD-ROM ドライブ / スーパーディスクドライブと差し替えることもできます。

☞ セレクトابل機器について ⇒ 「本章 2 セレクトابل機器の差し替え」

1 使用できる CD

CD-ROM ドライブで読み込み可能な CD は、次の種類です。

音楽用 CD

8cm、12cm の音楽用 CD を聴くことができます。

フォト CD

CD-ROM

使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。

CD エクストラ

CD-RW

CD-R

☞ CD の使用について ⇒ 「日常の取り扱い-CD / DVD」



注意 ・本製品では円形ディスクのみご使用いただけます。
円形以外のディスクを使用すると、本製品の故障の原因となります。



・メディアの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

2 CD のセットと取り出し



注意 ・ディスクトレイ内のレンズに触れないでください。CD-ROM ドライブの故障の原因になります。
・セレクトابلベイ動作ランプが点灯しているときは、CD-ROM ドライブが動作しています。このときは、取り出しボタンを押さないでください。CD を傷つけたり、CD-ROM ドライブの故障の原因となります。



お願い

・パソコン本体を携帯するときは、CD-ROM ドライブに CD が入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。



メモ

・CD は、電源が入っているときにセット / 取り出しができます。
・次の場合は、ディスクトレイは取り出しボタンを押しても出てこない、またはすぐには出てきません。
・電源を入れた直後
・リセットした直後
・ディスクトレイを閉じた直後
これらの場合には、時間をおいてから、取り出しボタンを押してください。

● CD のセット

CD-ROM ドライブへCDをセットするには、次のように行います。

1 パソコン本体の電源を入れる

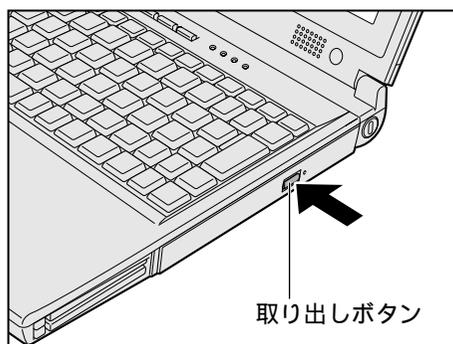


・電源が入っていないと、取り出しボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。

メモ

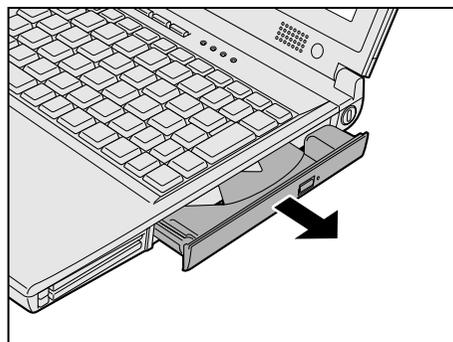
2 取り出しボタンを押す

取り出しボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

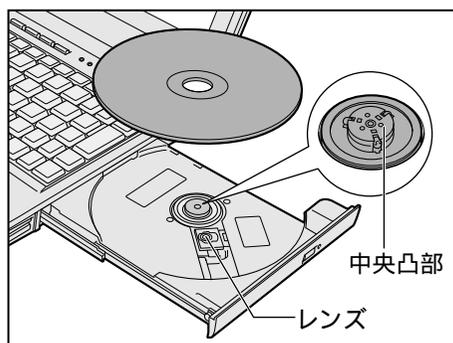


3 ディスクトレイを引き出す

CDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

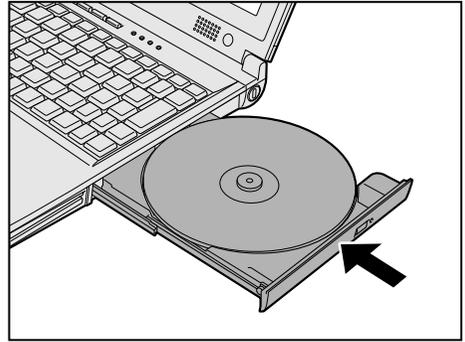


- ### 4 文字が書いてある面を上にして、CDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部分に合わせ、上から押さえてセットする
- カチッと音がして、セットされていることを確認してください。



- 注意** ・ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。CD-ROMドライブの故障の原因になります。
- ・CDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
 - ・CDを正しくディスクトレイにセットしないと、CDを傷つけることがあります。

- 5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



● CD の取り出し

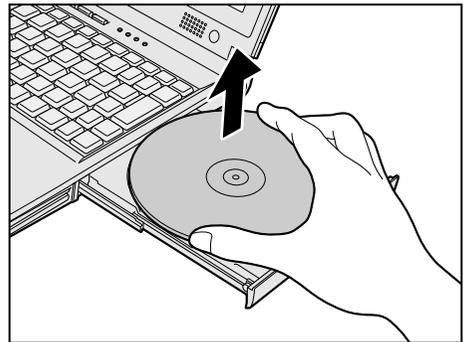
! 注意 ・セレクトラベルベイ動作ランプ () が点灯中は、CD を取り出さないでください。CD のデータや CD-ROM ドライブがこわれるおそれがあります。



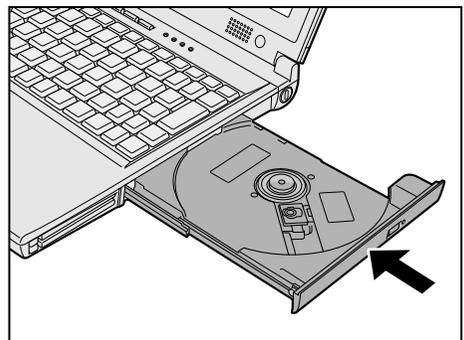
お願い

・パソコン携帯時は、CD-ROM ドライブに入っている CD は取り出してください。

- 1 パソコン本体の電源を入れる
- 2 取り出しボタンを押す
ディスクトレイが少し出てきます。
- 3 ディスクトレイを引き出す
CD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。
- 4 CD の両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す
ディスクトレイから CD を取り出します。
CD を取り出しにくいときは、中央凸部を少し押ししてください。簡単に取り出せるようになります。

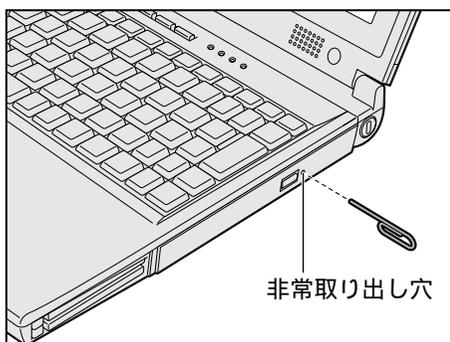


- 5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す





- ・電源を切っているときに取り出しボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。故障などで電源が入らない場合は、CD-ROMドライブの非常取り出し穴を、先の細い、丈夫なもの（例えば、クリップを伸ばしたもの）で押してください。ディスクトレイが出てきます。



- 注意** ・電源が入っているときには、非常取り出し穴を押さないでください。回転中のCDのデータやCD-ROMドライブがこわれるおそれがあります。

5 PC カード

本製品には、PC カード（別売り）を取り付けることができます。



注意 ・ホットインサージョンに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け / 取りはずしを行なってください。



メモ

- ・市販されている PC カードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。また、他のカードと併用すると、熱の影響により、他のカードの動作も不安定になる場合があります。
- ・ホットインサージョン
パソコン本体の電源を入れたままで、PC カードの取り付け / 取りはずしをすることをいいます。ただし、PC カードによってはこの機能に対応していないものがあります。

使用できる PC カードのタイプは、取り付けるスロットによって異なります。

使用スロット	使用可能タイプ
1（上側）	TYPE
0（下側）	TYPE /

PC カードの例を次にあげます。

- モデムカード
- SCSI アダプタ
- フラッシュメモリ
- LAN カード
- CardBus 対応カード



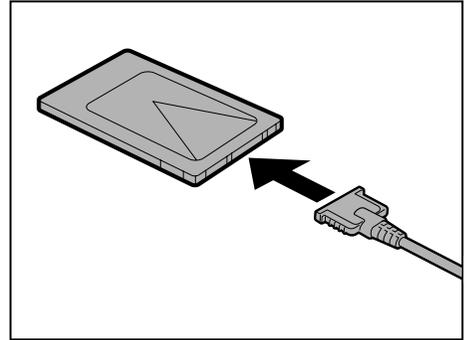
メモ

- ・スロット 0 にタイプ の PC カードを取り付けた場合は、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

👉 『PC カードに付属の説明書』

● 取り付け

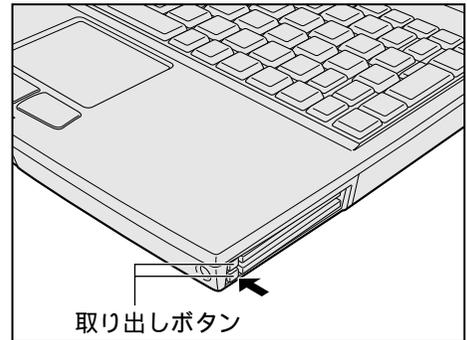
- 1 PCカードにケーブルを付ける
LANカードなど、ケーブルを接続することが必要なカードの場合は、この作業を行なってください。



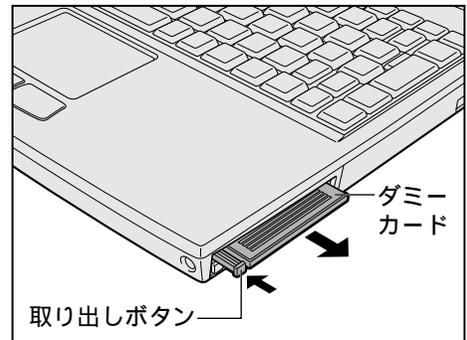
お願い

- ・ケーブルを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

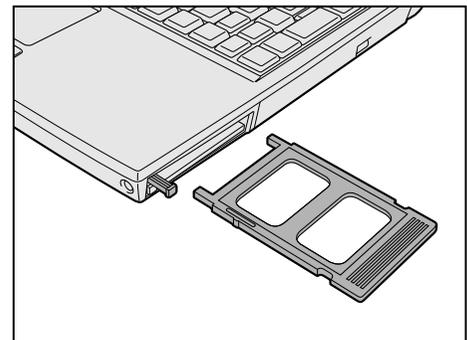
- 2 取り出しボタンを押す
取り出しボタンが出てきます。



- 3 再度、取り出しボタンを押す
「カチッ」と音がするまで押してください。
ダミーカードが少し出てきます。



- 4 ダミーカードを抜く
ダミーカードはなくさないように大切に保管してください。



5 上下や方向を確認し、PC カードを挿入する

カードを確実に接続するために、無理な力を加えずに静かに押ししてください。

カードを接続した後、カードの設定を確認してください。

☞ カードの接続および環境の設定方法 ⇨ 『PC カードに付属の説明書』

● 取りはずし



注意 ・PC カードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。



お願い

・PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから取りはずしを行なってください。

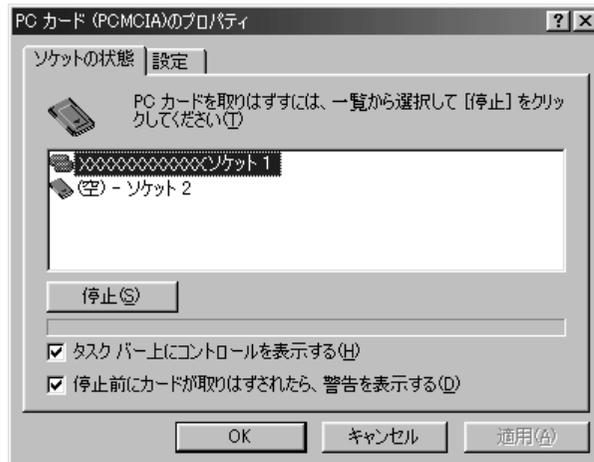
1 PC カードの使用を停止する

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする

[PC カード (PCMCIA)] をダブルクリックする

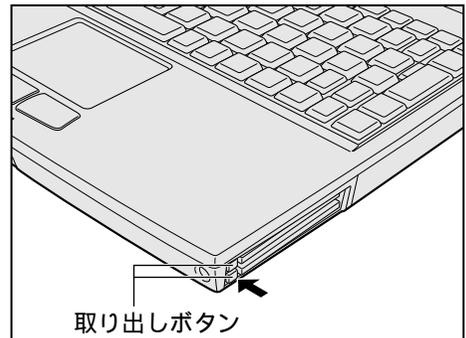
取りはずす PC カードを選択して、[停止] ボタンをクリックする

「安全に取りはずせません」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする



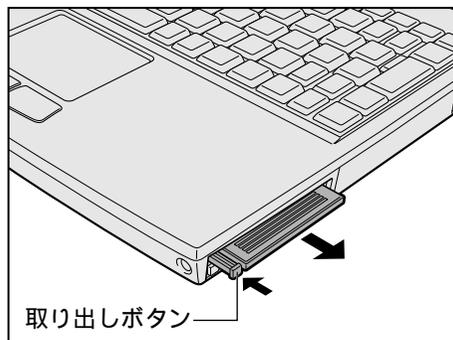
2 取りはずしたいカードの取り出しボタンを押す

取り出しボタンが出てきます。



3 再度、取りはずしたいカードの取り出しボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

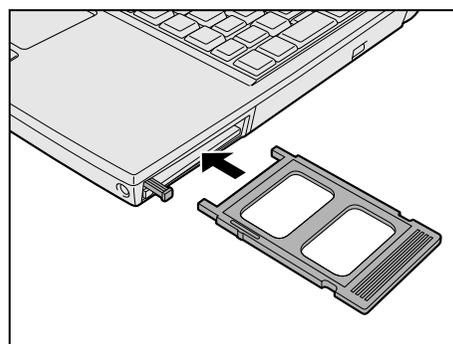


4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



注意 ・PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。または手袋などを着用のうえ取りはずしてください。

5 ダミーカードを取り付ける



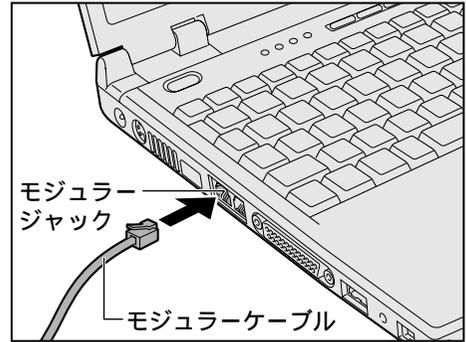
6 電話回線への接続

内蔵モデムを使用する場合に、2線式の電話回線に接続します。

1 モジュラーケーブルの取り付け / 取りはずし

● 取り付け

- 1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む



注意 ・モジュラーケーブルをモジュラージャック以外に接続しないでください。誤ったコネクタに接続すると故障のおそれがあります。

- 2 もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラージャックに差し込む
ISDN回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ (TA) またはダイヤルアップルータのアナログポートへ接続してください。

注意 ・内蔵モデムは日本国内線用です。海外でモデムを使用すると故障のおそれがあります。
・内蔵モデムは一般電話回線 (アナログ回線) に接続して使用してください。デジタル回線 (ISDN回線など) には接続できません。デジタル回線対応の公衆電話のデジタル側やデジタル式交換機 (PBX) へ接続すると、故障のおそれがあります。ホームテレホンやビジネスホン用の電話回線には絶対に接続しないでください。



お願い

- ・モジュラープラグをモジュラージャックに接続するときは、「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。
- ・市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- ・回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの (未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの) を使用してください。
- ・モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。

● 取りはずし

- 1 パソコン本体と電話機用モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグを抜く

② モデムの設定

1 お使いの電話回線を確認する

プッシュ式電話機をお使いの場合、ダイヤルボタンを押してダイヤル方法を確認しておきます。

ダイヤルボタンを押すと受話器から「ブツブツ」と音がする パルス

ダイヤルボタンを押すと受話器から「ピポパ」と音がする トーン

* 本製品をご購入時は「トーン」に設定されています。

ご使用の回線がパルスの場合は、手順 2 で設定を「パルス」に変更してください。

2 所在地の情報を設定する

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする

[モデム] をダブルクリックする

[ダイヤルのプロパティ] をクリックする



[国名 / 地名]

「日本」が選択されているか確認します。

[市外局番]

インターネットをする場所の市外局番を半角英数字で入力します。

[ダイヤル方法]

ご使用の電話回線を選択します。

パルス：ダイヤル式電話機、「ブツブツ」と音がするプッシュ式電話機

トーン：「ピポパ」と音がするプッシュ式電話機、ISDN 回線をご使用の場合

[外線発信番号]

「0」などをダイヤルしてから外線につなぐ場合、その数字や記号を半角で入力します。外線番号に続けて「,(カンマ)」を入力すると、カンマ 1 個につき約 2 秒間のダイヤル待ち時間を設定できます。

うまくつながらない場合は、「0,」「0,,」のようにカンマをつけて試してみてください。

3 設定が終了したら、[OK] ボタンを押す

7 LAN の接続

本製品には、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T)に対応した LAN インタフェースが内蔵されています。本製品の LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet、Ethernet であるかを検出し、自動的に切り替えます。ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項を説明します。

1 適正なケーブルの確認

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

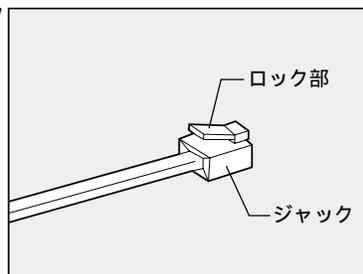
10BASE-T 規格 (10Mbps) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

2 LAN ケーブルの接続



お願い

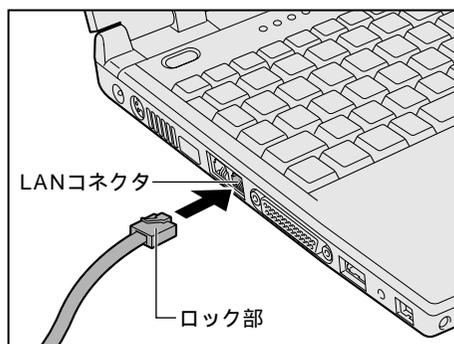
・LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、ジャックの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのジャックを左側面の LAN コネクタに差し込む

ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。



3 LAN ケーブルのもう一方のジャックを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『Windows のヘルプ』をご覧ください。また会社や学校でお使いの場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

3 Windows のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。購入時は既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。



注意 ・購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。

● ネットワークの設定

1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル] をクリックする

2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする

3 [ネットワークの設定] タブで変更を行う

コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(表示例)

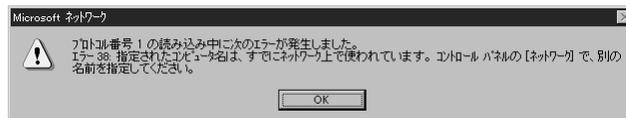
- ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。
- ネットワーククライアント ほかのコンピュータに接続する機能です。
 - プロトコル コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。
 - アダプタ コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。
 - サービス このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、ほかのコンピュータから使えるようにします。

4 [識別情報] タブで、[コンピュータ名] [ワークグループ] をネットワーク管理者の指示に従い、設定する



(表示例)

注意 ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値 (Default、Default_Wg) の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



5 [アクセスの制御] タブで、変更を行う



(表示例)

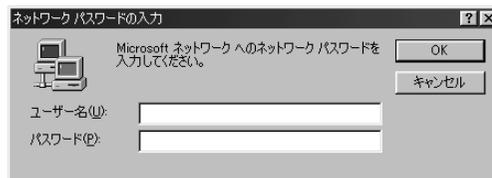
共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

6 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

- 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する
ここで表示されるダイアログボックスは、ネットワークの設定内容によって異なります(ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど)。ここでは、次のダイアログボックスを例にあげていますが、他のダイアログボックスの場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



(表示例)



メモ

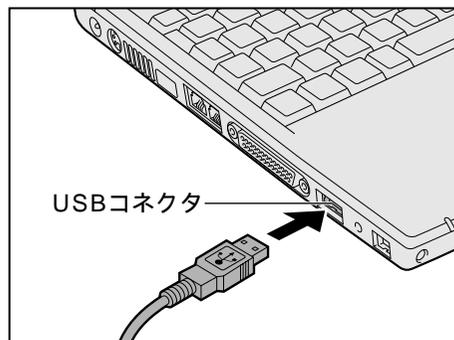
- ・パスワードは、忘れないようにしてください。ネットワークにログインできなくなります。忘れた場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

8 USB 機器

本製品には、USB 規格の機器を取り付けることのできる、USB コネクタが用意されています。

● 取り付け

- 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 機器に差し込む

手順 2 が必要ない機器もあります。



お願い

- ・ USB 対応の周辺機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ 今後出荷される USB 対応の周辺機器については、動作確認ができていないためすべての周辺機器の動作を保証することはできません。

● 取りはずし

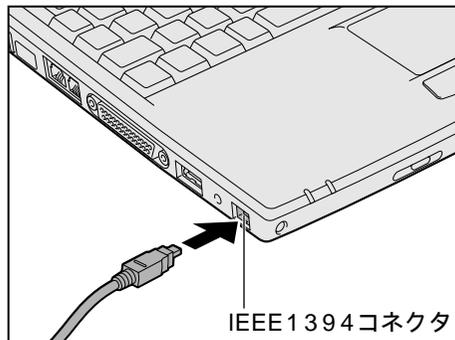
- 1 パソコン本体と USB 機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

☞ USB 機器についての詳細 ⇨ 『USB 機器に付属の説明書』

本製品には、IEEE1394 (i.LINK) 規格の機器を取り付けることのできる、IEEE1394 コネクタが用意されています。

取り付け

- 1 IEEE1394 ケーブルのプラグをパソコン本体の IEEE1394 コネクタに差し込む



- 2 IEEE1394 ケーブルのもう一方のプラグを IEEE1394 機器に差し込む



お願い

- ・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状と向きに注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。
- ・IEEE1394 対応の周辺機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・すべての IEEE1394 対応の周辺機器の動作確認は行なってありません。従って、すべての IEEE1394 機器の動作を保証するものではありません。
- ・IEEE1394 ケーブルは規格に準拠したもの (S100, S200, S400 対応) をご使用ください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- ・2m 以上の長さの IEEE1394 ケーブルは使わないようにしてください。
- ・取り付ける周辺機器によっては、スタンバイ機能またはハイバネーション機能が使用できなくなる場合があります。
- ・IEEE1394 機器を接続してアプリケーションから使用している間は、IEEE1394 機器の取り付け / 取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。その場合のデータ内容は保証できません。



メモ

- ・デジタルビデオカメラからの画像取り込みや書き戻しは、AC アダプタを接続した状態で行うことをおすすめします。コマ落ちが発生する場合は、ディスクを最適化する、または他のアプリケーションを終了させてください。
- ディスクの最適化
[スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[システムツール]-[デフラグ]をクリック

取りはずし

- 1** タスクトレイの [ハードウェアの取りはずしシステムトレイ] アイコン () をクリックする
- 2** 取りはずす IEEE1394 機器を選択する
- 3** 「デバイスをコンピュータから取りはずしても安全です」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- 4** パソコン本体と IEEE1394 機器に差し込んである IEEE1394 ケーブルを抜く



メモ

・デジタルビデオカメラを取りはずすときは、手順 1 ~ 3 は必要ありません。
☞ IEEE1394 機器について ⇨ 『IEEE1394 機器に付属の説明書』

10 プリンタ

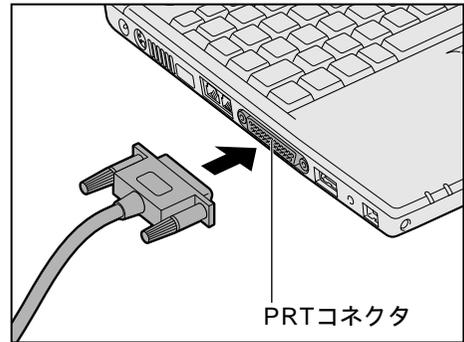
PRT コネクタにパラレルインタフェースを持つプリンタを接続します。また、USB コネクタに USB 対応のプリンタも接続できます。接続や設定について詳しくは『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

☞ USB 機器について ☞ 「本章 8 USB 機器」

● 取り付け

PRT コネクタに接続する場合の手順です。
プリンタとパソコンの電源を切った状態で接続します。

- 1 プリンタケーブルのプラグをパソコン本体の PRT コネクタに差し込む



- 2 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタに差し込む
プリンタの電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。

● プリンタの設定

● ドライバをインストールする

プリンタを使うには、ドライバのインストールが必要です。
『プリンタに付属の説明書』の手順に従ってインストールを行なってください。

● プリンタポートモードの設定

ご使用になるプリンタに合わせてプリンタポートモードの設定が必要です。

- 1 BIOS セットアップを起動する

☞ 起動方法 ☞ 「6 章 1-1 BIOS セットアップの起動方法」

- 2 [System Devices] メニューの [Parallel port] で [Enabled] または [Auto] を選択する

- 3 [Enabled] を選択した場合は [Mode] で、使用するプリンタに合ったモードに設定する

ECP (標準値)..... ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは、ECP に設定します。

Bi-directional..... 双方向に設定します。一部のプリンタまたは、プリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。

EPP EPP 対応に設定します。

Normal Mode 出力専用設定に設定します。

取りはずし

- 1 パソコン本体とプリンタに差し込んであるプリンタケーブルを抜く
ご使用のプリンタに合わせて、プリンタの電源を切ってください。

11 その他の機器

1 PS/2 対応機器

パソコン本体の PS/2 コネクタに接続して使用します。

PS/2 対応機器には、次のようなものがあります。

- ・マウス
- ・キーボード
- ・テンキー
- ・トラックボール

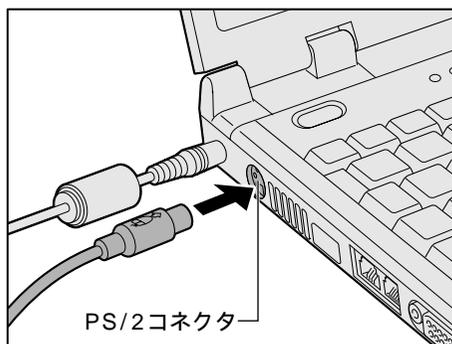


注意 ・PS/2 対応機器を接続する場合には、必ず電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま接続すると、故障のおそれがあります。

● 取り付け

1 PS/2 コネクタに、ケーブルのプラグを差し込む

接続するときは、プラグに印刷されている矢印マークを上にしてしっかりと奥まで差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。



2 マイクロホン

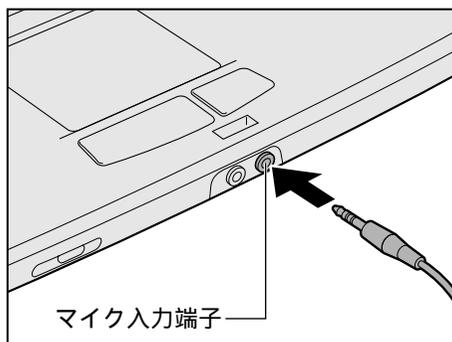
マイク入力端子に接続します。

マイクのプラグは、直径 3.5mm モノラルミニジャックタイプをお使いください。

● 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。



3 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm ステレオミニジャックタイプをお使いください。
ヘッドホンの音量は音量調節バー、または Windows の「ボリュームコントロール」で調節してください。

👉 音量の調節 ⇨ 「1 章 6 音量の調節」

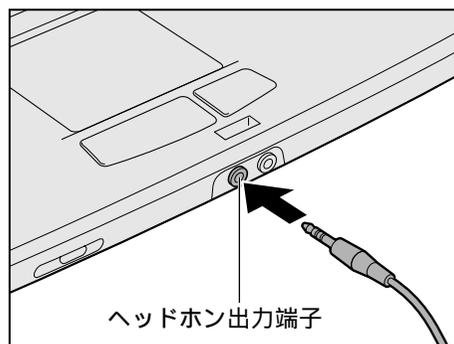


注意 ・ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。
耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えるおそれがあります。

● 接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。



お願い

- ・次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

4 CRT ディスプレイ

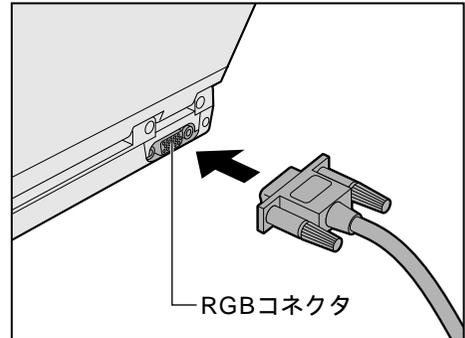
RGB コネクタにCRTディスプレイを接続できます。

⇒ CRTディスプレイの取り扱い ⇒ 『CRTディスプレイに付属の説明書』

取り付け

CRTディスプレイとパソコンの電源を切った状態で接続します。

- 1 CRTディスプレイに付属のケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む
コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグをCRTディスプレイのコネクタに差し込む
初めてCRTディスプレイを接続した場合、ドライバのインストールが必要です。パソコン本体の電源を入れ、画面の指示に従ってインストールを行なってください。

取りはずし

- 1 CRTディスプレイとパソコンの電源を切る
- 2 RGBコネクタに差し込んであるケーブルのプラグを抜く

表示方法の切り替え

CRTディスプレイを接続した場合、次の表示方法があります。

- ・ CRTディスプレイだけに表示する
- ・ CRTディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- ・ 内部液晶ディスプレイだけに表示する



お願い

- ・ 次のようなときには、表示方法を切り替えないでください。データが消失するおそれがあります。
 - ・ データの読み込みや書き込みをしている間
エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
 - ・ 通信を行なっている間
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。

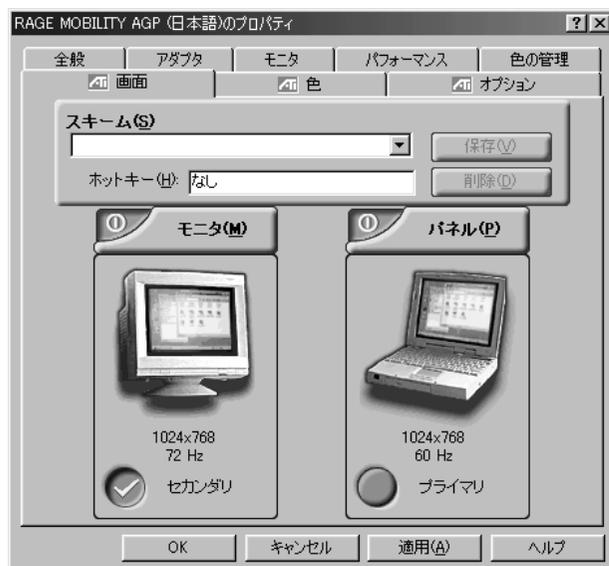


メモ

- ・ CRTディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRTディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

● 画面のプロパティで設定する

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [画面]をダブルクリックする
- 3 [設定]タブで[詳細]ボタンをクリックする
- 4 [画面]タブで表示させるディスプレイを選択する



(表示例)

ディスプレイアイコン左上の  ボタンをクリックしてディスプレイを有効にします。有効になっている場合は、ディスプレイのアイコンにデスクトップ画面が表示されます。

5

便利な機能

お使いになると便利なソフトウェアや機能について説明します。
使用している画面イメージは一例です。

- 1** インターネットに接続する 90
- 2** 電子メールを使う 94
- 3** イージーボタンを活用する 106
- 4** タッチパッドを便利に使う 109
- 5** 消費電力を節約する 114

① インターネットに接続する

インターネットに接続するには、あらかじめインターネットプロバイダとの契約が必要です。ここでは「簡単インターネット」を使ったオンラインサインアップの方法と、「インターネット接続ウィザード」からパソコンの設定を行う方法を紹介します。



メモ

- ・プロバイダ
パソコンとインターネットを接続するサービスを提供する会社です。正式には「インターネットサービスプロバイダ」といいます。
- ・オンラインサインアップ
プロバイダへの入会の契約を電話回線などを使って行うことです。契約するとすぐにサービスを利用することができます。
☞ サービスの詳細 ☞ 『各プロバイダ』

① 「簡単インターネット」からのオンラインサインアップ

「簡単インターネット」は、インターネットを初めて行う方のために、インターネットプロバイダ接続用（オンラインサインアップ用）ソフトを簡単に選択し、実行できる便利なソフトです。

本製品にインストールされているプロバイダ接続用ソフトは、すべて「簡単インターネット」から選択できます。



メモ

- ・「簡単インターネット」を使用せずに、直接各プロバイダ接続用ソフトを起動することもできます。また、「インターネット接続ウィザード」を使って接続することもできます。
☞ 「本節 2 インターネット接続ウィザードから設定する」

1 モデムと電話回線を、モジュラーケーブルで接続する

☞ 「4章 6 電話回線への接続」

2 デスクトップ上の[簡単インターネット] アイコンをダブルクリックする

「モデムと電話回線が、モジュラーケーブルで正しく接続されていることを確認し、[OK] ボタンを押してください」と表示されます。

3 確認し、[OK] ボタンをクリックする

画面が表示されます。



(表示例)

プロバイダー一覧

本製品にインストールされている、インターネット接続アプリケーションを提供しているプロバイダの一覧です。入会したいプロバイダを選択します。

ダイヤル方式

お使いの電話回線のダイヤル方式（パルスもしくはトーン）を選択します。

外線発信番号

市内通話：市内通話で外線に電話をかけるときにダイヤルする番号を入力します。

市外通話：長距離通話で外線に電話をかけるときにダイヤルする番号を入力します。

外線に電話をかけるときに、特定の番号をダイヤルする必要がない場合は、両方のボックスを空白のままにしておきます。

4 プロバイダを選択し、各設定を行ったら、[接続開始] ボタンをクリックする

選択されたプロバイダのインターネット接続用アプリケーションが起動します。

表示される内容に従って、サインアップを行なってください。

うまく接続できない場合は、モデムの設定を確認してください。

☞ モデムの設定 ☞ 「4章 6-2 モデムの設定」



お願い

- ・インターネットのアクセスは、そのアクセスに応じた電話料金、およびプロバイダへのアクセス料金がかかります。また、プロバイダによっては加入料金、月額の基本料金がかかります。プロバイダへ加入するときは、そのプロバイダへの料金体系などをご理解のうえ加入してください。

②「インターネット接続ウィザード」から設定する

本製品には、インターネット接続のための設定がすばやく簡単にできる「インターネット接続ウィザード」が用意されています。「簡単インターネット」を使わない場合、または既にプロバイダと契約をしてインターネットのアカウントをお持ちの方は、こちらから設定を行なってください。

プロバイダへの入会手続きについては、それぞれのプロバイダにお問い合わせください。



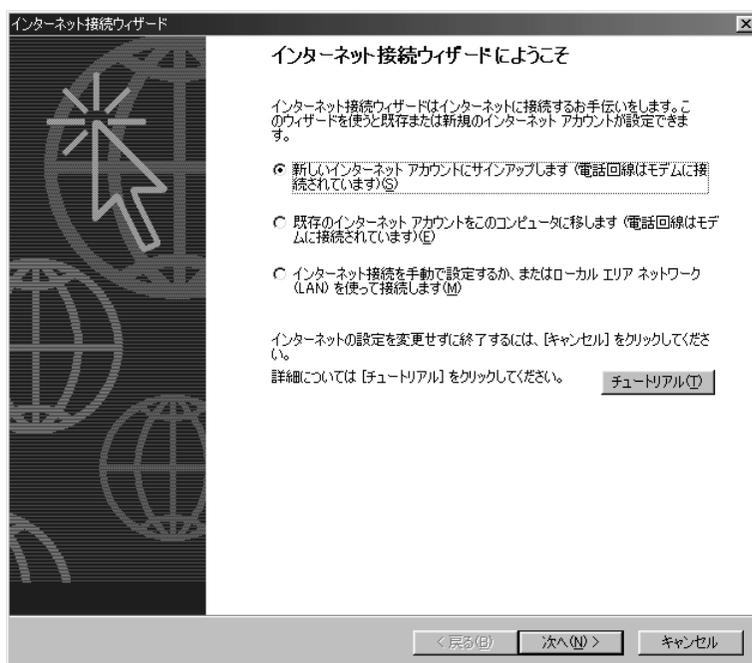
- ・インターネット接続ウィザードは一般の電話回線（アナログ）からのみ接続できます。PHS、携帯電話、ISDN などからは接続できない場合があります。

1 モデムと電話回線を、モジュラーケーブルで接続する

☞「4章 6 電話回線への接続」

2 [スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[インターネット ツール]-[インターネット接続ウィザード]をクリックする

次の画面が表示されます。



3 お使いの状況に合った項目をクリックし、[次へ] ボタンをクリックする 画面の指示に従って操作してください。

3 インターネットボタンを使う

ワンタッチでブラウザを起動できます。

既定値では「Internet Explorer」が起動するように設定されています。その他のソフトウェアに変更したい場合は、「本章 3 イージーボタンを活用する」をご覧ください。



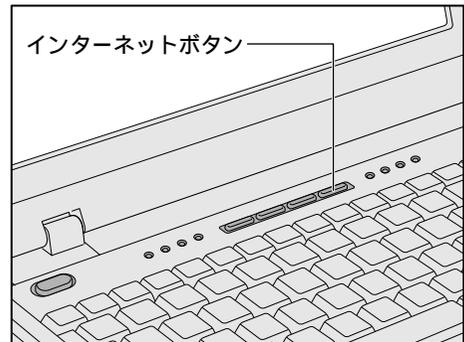
メモ

- ・ブラウザ
ホームページを見るためのソフトウェアです。本製品には「Internet Explorer」が用意されています。
- ・初めてインターネットボタンを押したときは、インターネットに接続するための設定や契約が必要です。
 - ☞ インターネットへの接続方法
 - ☞ 「本節 1 簡単インターネットからのオンラインサインアップ」
 - ☞ 「本節 2 インターネット接続ウィザードから設定する」

● 操作方法

1 インターネットボタン を押す

パソコン本体の電源がOFFのときは、インターネットボタンを2秒以上押し続けた後、指をボタンから離してください。電源がONになり、ブラウザが起動し、インターネットに接続します。



5

章

便利な機能

② 電子メールを使う

電子メールを使うには次の準備が必要です。

プロバイダとの契約が完了している / インターネットへ接続する設定が完了している
☞ 完了していない場合 ☞ 「本章 1 インターネットに接続する」、『各プロバイダ』

通常使用するメールソフトの設定をする

☞ 「本節 1 メールソフトを設定する」

電子メールを使うための設定が完了しているか確認する

☞ 「本節 2 メールソフトの設定を確認する」

また、本製品にはメールソフトをワンタッチで起動できるメールボタンがあります。

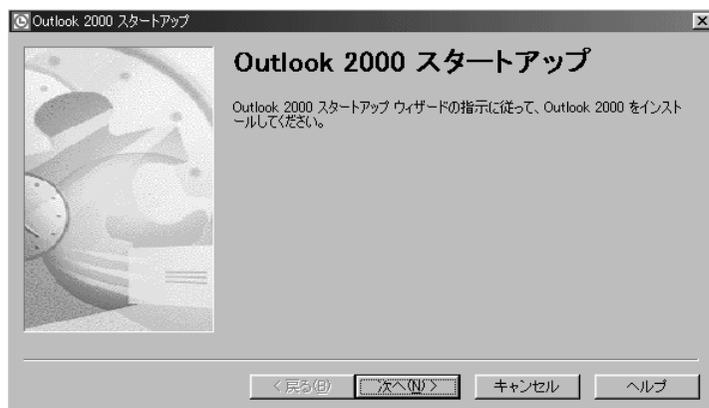
☞ 「本節 3 メールボタンを使う」

① メールソフトを設定する

1 デスクトップ上の [Microsoft Outlook] () アイコンをダブルクリックする

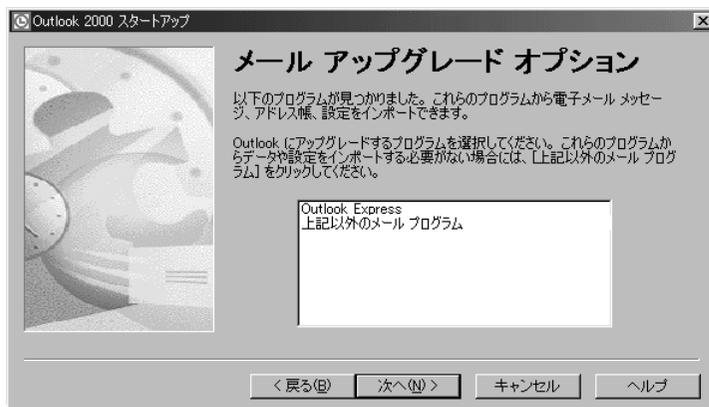
「通常使うマネージャとして設定しますか？」のメッセージが表示された場合、[はい] をクリックしてください。

初めて「Outlook 2000」を起動すると、「Outlook 2000 スタートアップウィザード」が起動します。

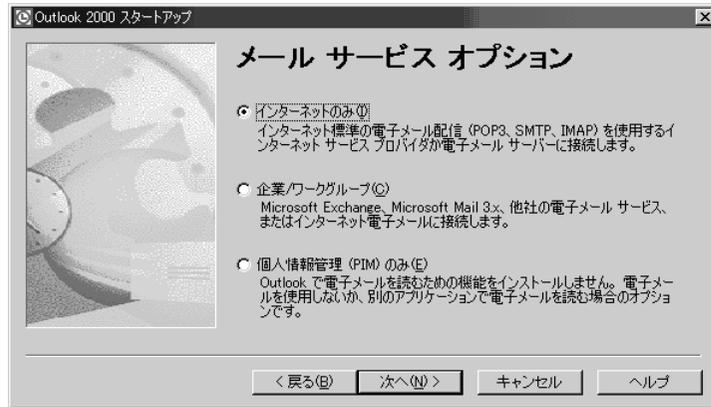


2 [次へ] ボタンをクリックする

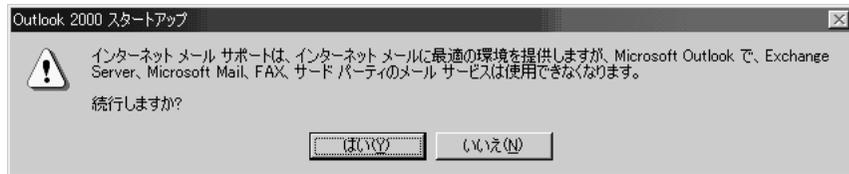
[メール アップグレード オプション] 画面が表示されます。



- 3** [上記以外のメール プログラム] をクリックし、[次へ] ボタンをクリックする
[メール サービス オプション] 画面が表示されます。



- 4** [インターネットのみ] をクリックし、[次へ] ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。

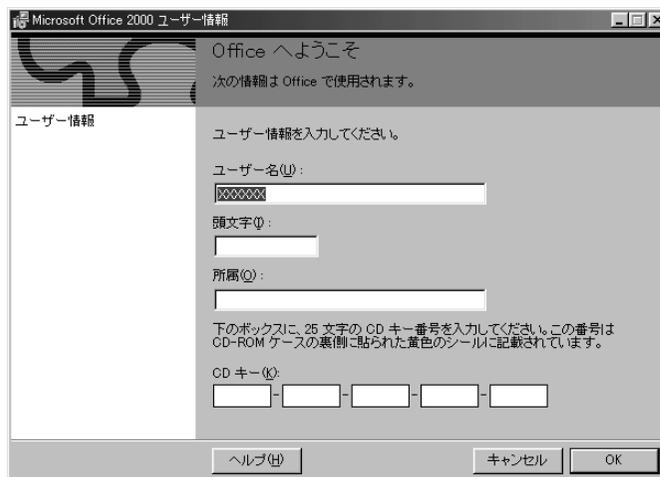


- 5** [はい] ボタンをクリックする



メモ

- ・初めて Microsoft Office (*1) のアプリケーションを起動した場合、次の画面が表示されます。

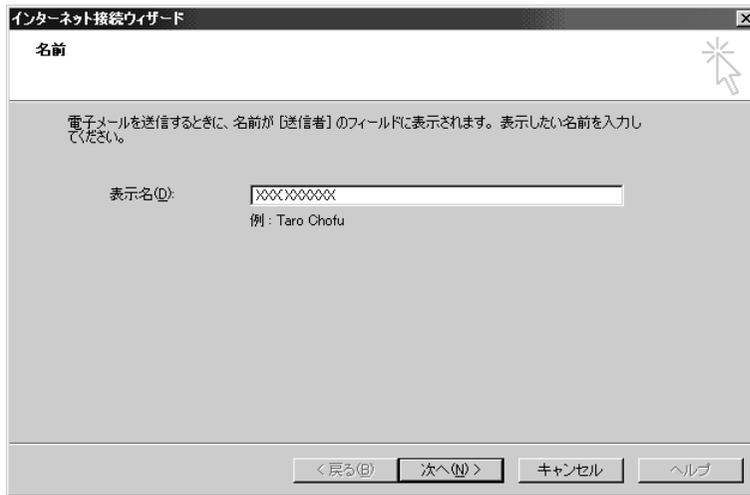


(表示例)

この場合、Microsoft Office の CD キーを入力する必要があります。「Microsoft Office 2000 Personal CD-ROM」ケースの裏側のシールに印刷されている CD キーを入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。

(*1) Microsoft (R) Office Personal および Shogakukan Bookshelf (R) Basic

インターネット接続ウィザードが始まり、[名前]画面が表示されます。



6 [表示名] に名前を入力する

電子メールを送るときの、送り主の名前を入力します。

ローマ字で入力すると、海外にメールを送る場合も判別できるので便利です。

半角カタカナは使用しないでください。

7 [次へ] ボタンをクリックする

[インターネット電子メール アドレス] 画面が表示されます。



8 [電子メール アドレス] にメールアドレスを入力する

プロバイダから割り当てられているアドレスを「xx@xx.xx」の形で、半角英数字で入力します。

- 9** [次へ] ボタンをクリックする
[電子メール サーバー名] 画面が表示されます。

10 サーバ名を設定する

- 受信メール サーバーの種類 : 「POP3」を選択します。
 受信メール (POP3 または IMAP) サーバー : 受信メールのサーバ名を入力します。
 送信メール (SMTP) サーバー : 送信メールのサーバ名を入力します。
 受信メール、送信メールの各サーバ名については、ご契約のプロバイダにご確認ください。

- 11** [次へ] ボタンをクリックする
[インターネット メール ログオン] 画面が表示されます。

12 アカウント名とパスワードを入力する

アカウント名：プロバイダに接続するときのアカウント名を入力します。

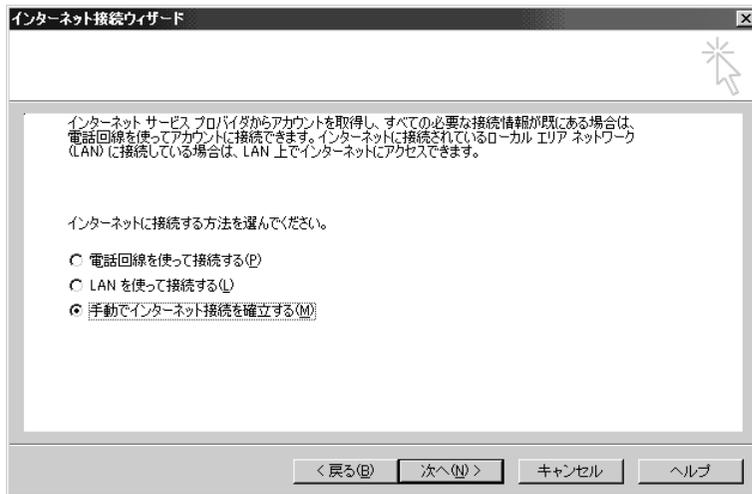
パスワード：プロバイダに接続するときのパスワードを入力します。*（アスタリスク）で表示されます。

アカウント名とパスワードについては、プロバイダとの契約内容をご確認ください。

[パスワードを保存する] をチェックした場合は、接続するたびに、自動的にパスワードが送信されます。

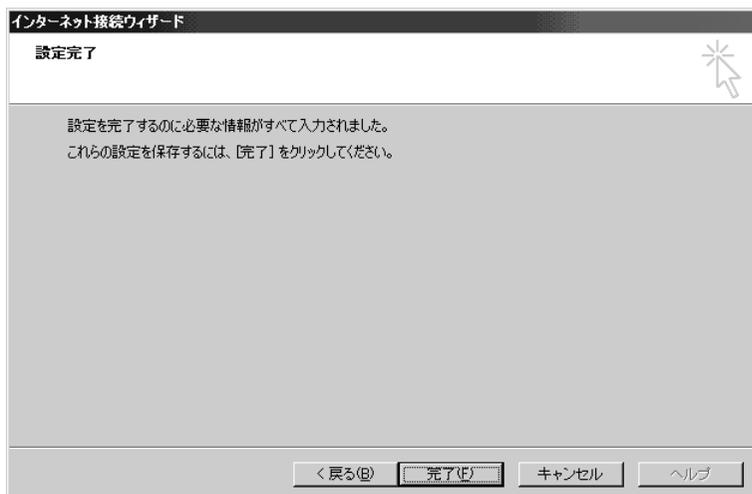
13 [次へ] ボタンをクリックする

インターネットに接続する方法の選択画面が表示されます。



14 [手動でインターネット接続を確立する] をクリックし、[次へ] ボタンをクリックする

[設定完了] 画面が表示されます。



15 [完了] ボタンをクリックする

「Outlook 2000」の設定が完了します。

● オプションの設定

電子メールを送る形式について設定します。

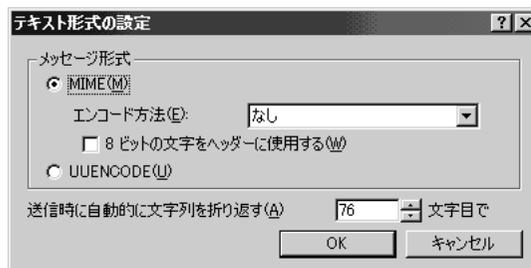
- 1 メニューバーから [ツール] - [オプション] をクリックする
[オプション] 画面が表示されます。



- 2 [メール形式] タブをクリックする



- 3 [このメッセージ形式で送信する] の [テキスト形式] を選択し、[設定] ボタンをクリックする
[テキスト形式の設定] 画面が表示されます。

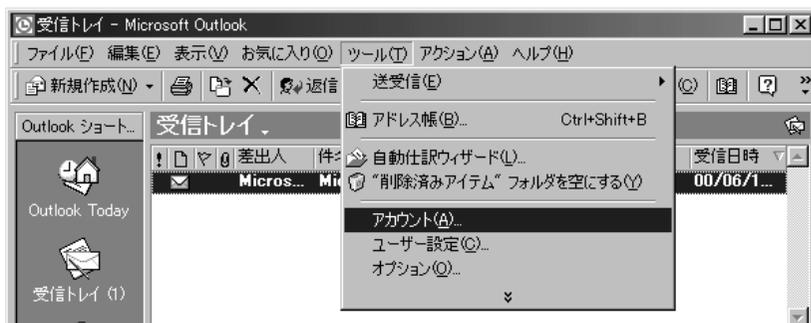


- 4 メッセージ形式を設定し、[OK] ボタンをクリックする
メッセージ形式 : [MIME] をチェックします。
エンコード方法 : [なし] を選択します。
[オプション] からは、他にもさまざまな設定が行えます。

② メールソフトの設定を確認する

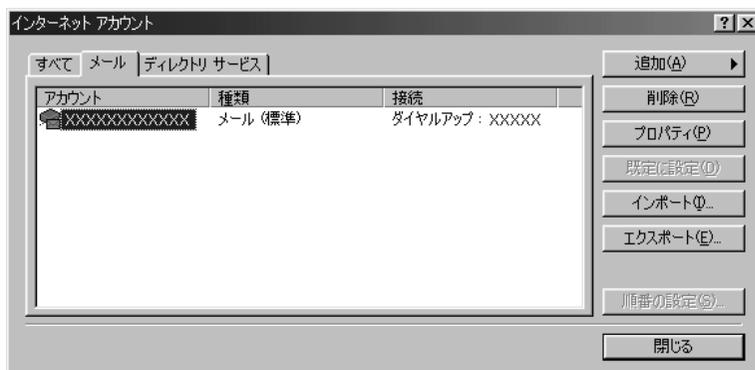
「Outlook 2000 接続ウィザード」、またはその他の接続用ソフトで行なった設定の確認、変更ができます。

1 メニューバーから [ツール] - [アカウント] をクリックする



(表示例)

2 [メール] タブをクリックする



(表示例)

3 アカウント名が選択されていることを確認して、[プロパティ] ボタンをクリックする



- ・アカウント
メモ インターネットの利用者を特定するための情報です。ユーザID とパスワードからなります。

4 各タブで設定を確認する

[全般] タブ



(表示例)

名前を確認する

差出人の名前を確認します。変更する場合はひらがな、全角カタカナ、漢字、ローマ字で入力します。半角カタカナは使用しないでください。

電子メールアドレスを確認する

差出人のアドレスが入力されているか確認します。プロバイダから割り当てられているアドレスが入力されているか確認してください。

5

章
便利な機能

[サーバー] タブ



(表示例)

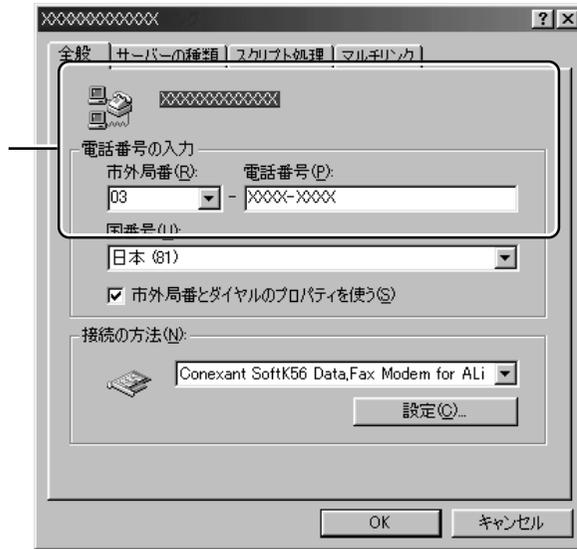
[受信メール][送信メール] のサーバーを確認する
[受信メールサーバ -] の [アカウント名] を確認する
サーバーについての詳細は各プロバイダにお問い合わせください。

[接続] タブ



(表示例)

[接続] で使用する回線を確認する
[モデム] で使用する接続を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックする
画面が表示されます。



(表示例)

接続先の電話番号が正しいか確認する

5 [OK] ボタンをクリックする

3 メールボタンを使う

ワンタッチでメールソフトを起動できます。

既定値では「Microsoft Outlook 2000」が起動するように設定されています。

「本節 1 メールソフトを設定する」をご覧ください。

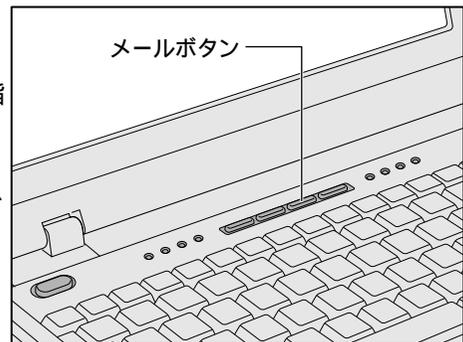
その他のソフトウェアに変更したい場合は、「本章 3 イージーボタンを活用する」をご覧ください。

1 メールボタン を押す

パソコン本体の電源が OFF のときは、メールボタンを 2 秒以上押し続けた後、ボタンから指を離すと電源が ON になります。

メール着信確認の機能が設定されているときは、新着メールの確認を行い、メールソフトが起動します。

☞ 「本節 4 新着メールを確認する」



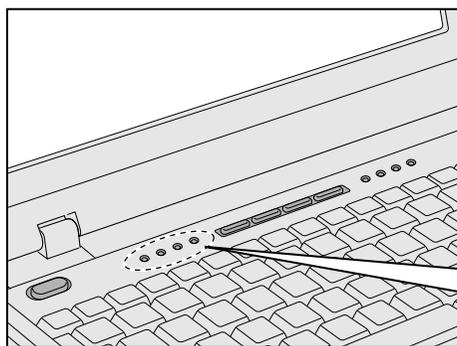
4 新着メールを確認する

メール着信ランプで、新着メールがあるかどうかを確認できます。新着メールがあると、メール着信ランプが点灯します。また、メッセージや音で知らせることもできます。この機能を使用するためには、あらかじめ設定が必要です。

AOL、MSN と契約してインターネット接続を行なっている場合、新着メール確認機能を使うことはできません。

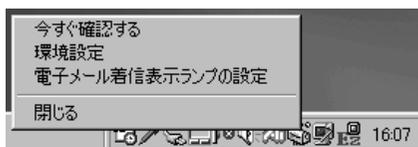


・新着メールを確認するときは、アクセスに応じて電話料金およびプロバイダへの接続料金が掛かります。

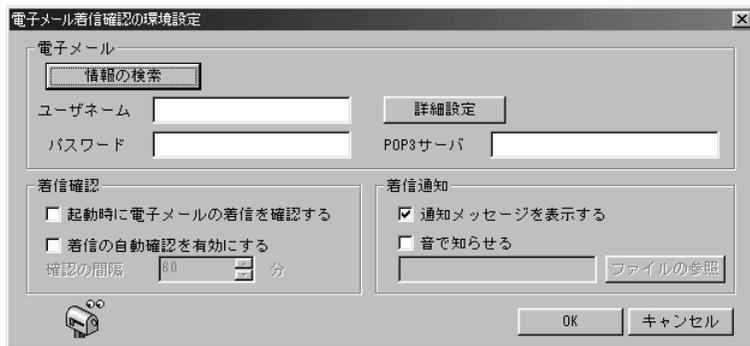


設定方法

- 1 タスクバーの () アイコンを右クリックして、表示されるメニューから [環境設定] をクリックする



- 2 設定する



[電子メール]

ご使用のメールボックス情報を設定します。

ユーザーネーム : 受信メールサーバのアカウント名を入力します。

パスワード : 受信メールサーバのパスワードを入力します。

POP3 サーバ : 受信メールサーバ名を入力します。

☞ 『各プロバイダの説明書』

[着信確認]

新着メールを確認する間隔を設定します。

起動時に電子メールの着信を確認する：システムを起動したときに、新着メールがあるか確認します。

着信の自動確認を有効にする：設定時間ごとに新着メールがあるか確認します。

[着信通知]

新着メールがきたときに、ランプ点灯以外の通知方法を設定します。

通知メッセージを表示する：新着メールがくると、メッセージを表示します。

音で知らせる：新着メールがくると、音を鳴らします。音は [ファイルの参照] から設定できます。

● 新着メールの確認方法

新着メールの確認を行うときは、回線に接続されていなければ自動的に接続し、確認後、切断します。あらかじめ回線に接続されていたときは切断されません。

自動的に接続しない場合は、[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [インターネットオプション] - [接続] タブの [ネットワーク接続が存在しないときには、ダイヤルする] が選択されているか確認してください。

メール着信ランプの点灯後メールソフトを起動した場合、新着メールを読んでいなくても、メールソフトを終了するとメール着信ランプは消灯します。また、パソコンの電源をOFFにしてもメール着信ランプが消灯します。

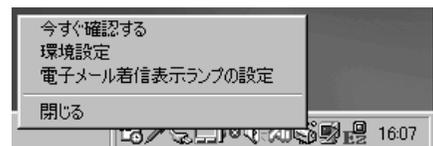
● 方法 1

メールボタンを押す

☞ 「本節 3 メールボタンを使う」

● 方法 2

タスクバーの () アイコンを右クリックして、表示されるメニューから [今すぐ確認する] をクリックする



(表示例)

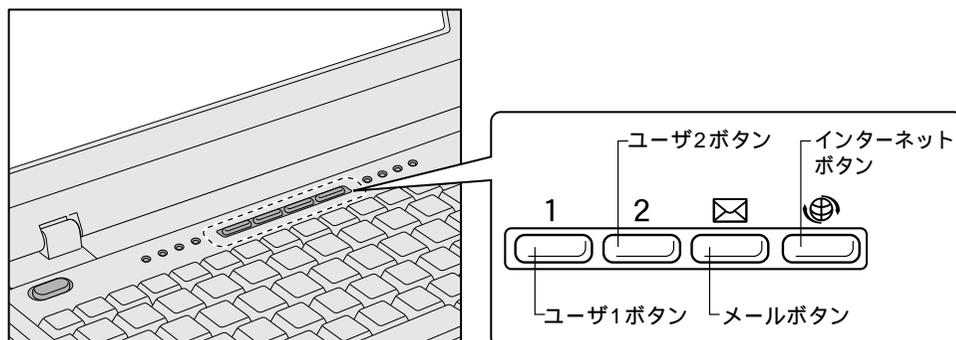
● 方法 3

設定時間ごと、またはシステム起動時に確認する

☞ 「本節 3- 設定方法」

3 イージーボタンを活用する

本製品には、ワンタッチでアプリケーションやファイルを起動できるイージーボタンがあります。



ボタンを押すだけで、アプリケーションやファイルを起動したり、ある特定の操作（閉じる、消音など）を実行できます。

既定値では次のように設定されています。

ユーザ1ボタン /ユーザ2ボタン	設定されていません。 初めてボタンを押すと、登録画面が表示されます。 ☞「本節 アプリケーションやファイルを登録する」
メールボタン	Microsoft Outlook 2000 ☞「本章 2 電子メールを使う」
インターネットボタン	Internet Explorer ☞「本章 1 インターネットに接続する」

● 使用方法

1 各ボタンを押す

パソコン本体の電源がOFFのときは、ボタンを2秒以上押し続けた後、ボタンから指を離すと電源がONになります。

ユーザ1ボタン/ユーザ2ボタンを初めて押したときには、登録画面が表示されます。

☞「本節 アプリケーションやファイルを登録する」

● アプリケーションやファイルを登録する

1 タスクバーの [Easy Button] () アイコンをダブルクリックする

2 設定をする

必要な項目を設定してください。

画面は [プロパティ] で [アプリケーションの起動] をチェックしている場合です。

[機能の選択] をチェックしているときは、[起動ファイル名] は表示されません。



(表示例)

[ボタン名]

ボタンを選択します。

WWW : インターネットボタン

Mailer : メールボタン

User-1 : ユーザ 1 ボタン

User-2 : ユーザ 2 ボタン

[プログラム名]

ボタンを押したときに、画面に表示したい名称 (文字) を入力します。

[標準設定] ボタン

現在選択されているボタンの設定をご購入時の状態に戻します。

[プロパティ]

次の中から、ボタンを押したときに起動するアプリケーションやファイルなどを選択します。

機能の選択 チェックすると、あらかじめ登録されている一定の操作を選択できます。

MUTE	消音する
Close Application	選択されているアプリケーションやウィンドウを閉じる
Task Switch	タスクバーに表示されているウィンドウを順番に切り替える

アプリケーションの起動 チェックすると、あらかじめ登録されているアプリケーションを選択できます。

起動ファイル名 上記以外のアプリケーションやファイルを登録したい場合、[アプリケーションの起動] をチェック後、[ファイルの参照] ボタンをクリックして設定します。

[全てを標準設定に戻す] ボタン

すべてのボタンの設定をご購入時の状態に戻します。

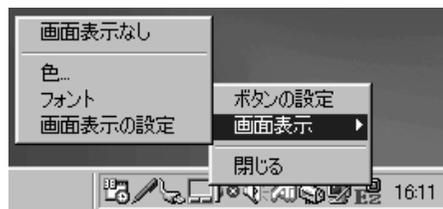
3 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックする

● 画面表示の設定

ボタンを押したときの画面の表示について設定できます。

1 タスクバーの [Easy Button] () アイコンを右クリックする

2 [画面表示] を選択し、表示されるメニューから設定したい項目をクリックする



(表示例)

[画面表示なし]

ボタンを押したときに画面に [プログラム名] を表示しません。

[色]

文字の色を設定します。

[フォント]

文字の種類を設定します。

[画面表示の設定]

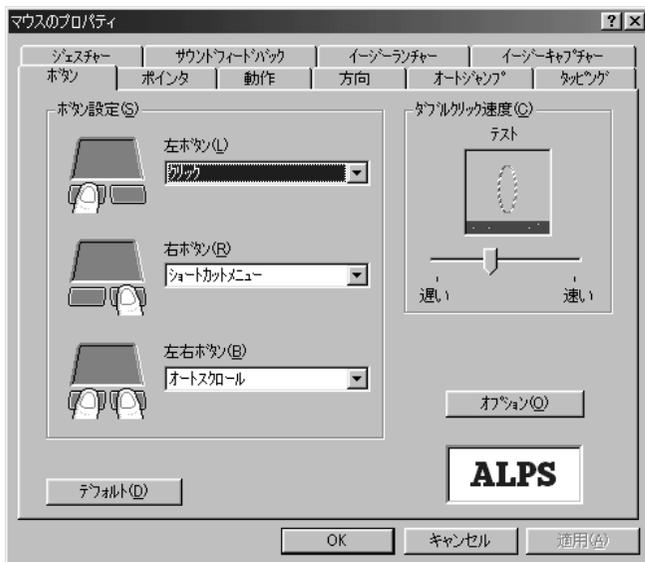
文字のサイズ、表示時間、背景色などを設定します。

4 タッチパッドを便利に使う

タッチパッドや右ボタン / 左ボタンはお好みに応じて、使いやすく設定できます。本節では、お使いになると便利な機能を紹介します。設定は [マウスのプロパティ] で行います。

● [マウスのプロパティ] の設定方法

- 1 タスクバー上の  アイコンをダブルクリックする画面が表示されます。



メモ

・[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックし、[マウス]をダブルクリックしても表示できます。

- 2 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

● ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の  をクリックする
マウスポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

● タッピング機能

[タッピング] タブで設定します。

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタン / 右ボタンを使用しなくてもクリック (1 回たたく) ダブルクリック (2 回たたく) ドラッグアンドドロップ (2 回たたいて移動し、指を離す) などの基本操作が行えて便利です。



[タッピング]

チェックすると、タッピング機能が使用できます。

続けてタッピングするときの速度は、スライダーバーを動かして調節します。

[ドラッグロックの設定]

タッピングでドラッグした場合、指を離してもドラッグ状態を保ちたい場合は、[ドラッグロック] をチェックします。

ドラッグ状態を解除する方法を次の中から選択します。

[自動解除] : ある一定時間経ったらドラッグ状態を解除します。
時間はスライダーバーを動かして調節できます。

[タッピング又はクリックで解除] : タッピング (1 回たたく) またはクリックの動作でドラッグ状態を解除します。

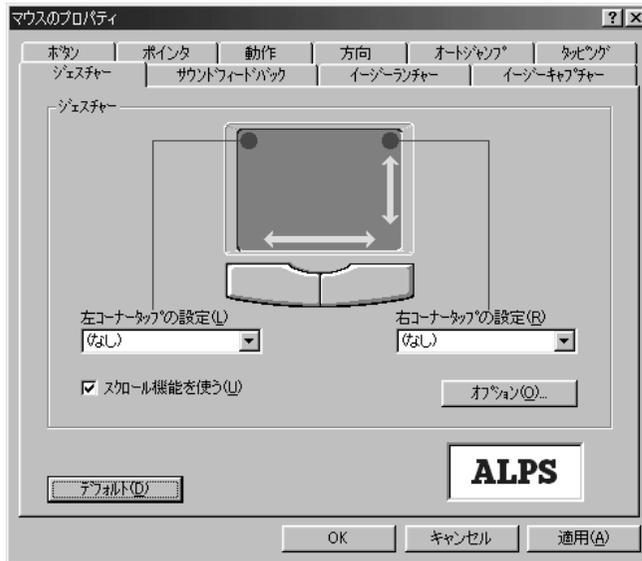
[キー入力時タップしない]

タッピング機能を設定していても、キーボードからキーを入力している間はタッピング機能が効かないようにします。

● タッピング機能を便利に使う

[ジェスチャー] タブで設定します。

タッチパッドの右上、左上をタッピングしたときの動作やスクロール機能を設定しておくことができます。



[左コーナータップの設定] [右コーナータップの設定]

タッチパッドの左上、右上をタッピングしたときの動作を設定できます。

なし	設定しません。
ショートカットメニュー	右クリックや  キーを押したときと同じ動作をします。
オートスクロール	マウスポインタが  アイコンになります。このアイコンを中心にしてスクロールしたい方向にマウスポインタを移動すると  (表示例：下の場合) が表示され、自動的にその方向の端までスクロールします。
イージーランチャー	イージーランチャー画面を表示します。  「本節 イージーランチャー機能」
イージーキャプチャー	イージーキャプチャー画面を表示します。一時的にメモ帳のように使用できます。

[スクロール機能を使う]

タッチパッドの右端、下端に指を合わせて上下または左右に動かしたときに、スクロール機能を使用するときはチェックします。

オートジャンプ機能

[オートジャンプ] タブで設定します。

ウィンドウを開いたときに、マウスポインタが自動的に指定の位置に移動する機能です。3つの項目から、マウスポインタを移動したい位置をチェックして、優先順位を設定します。チェックすると優先順位に従って、   が表示されますので、位置をご確認ください。

ウィンドウによって内容が異なりますので、ウィンドウの内容と優先順位に従って、マウスポインタが移動します。

画面はすべての項目をチェックした場合です。



イージーランチャー機能

イージーランチャー画面をデスクトップ上に一時的に表示し、ボタンをクリックするだけで、最小化、閉じるなどの操作を実行したり、登録したアプリケーションやファイルを簡単に起動できる機能です。

イージーランチャー画面を使う

- 1 タスクバーの  を右クリックして、表示されるメニューから [イージーランチャー] をクリックする

イージーランチャー画面が表示されます。画面が表示されている間、マウスポインタはイージーランチャー画面内しか動きません。



(表示例)



・[ジェスチャー] タブの [左コーナータップの設定] または [右コーナータップの設定] で [イージーランチャー] を選択すると、タッチパッドの左上または右上を 1 回たたくだけでイージーランチャー画面が表示されるので便利です。

- 2 イージーランチャー画面のボタンをクリックする
ボタンをクリックすると、イージーランチャー画面は消えます。

● ボタンを登録する

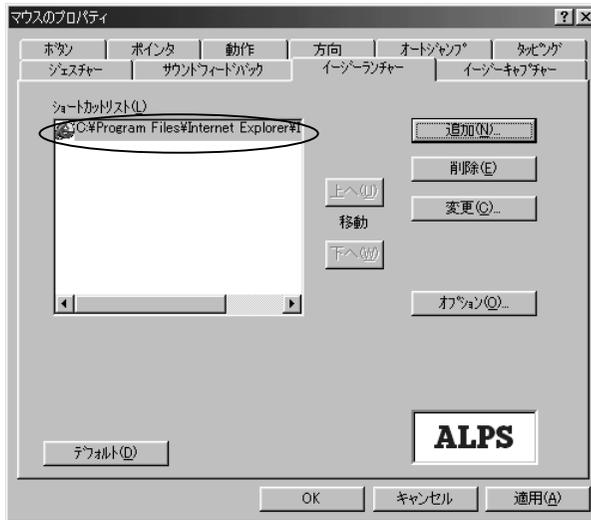
[イージーランチャー] タブで設定します。

1 [追加] ボタンをクリックする

2 登録したいアプリケーションやファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックする

ショートカットリストに追加されます。

画面は「Internet Explorer」を登録した場合です。



3 ショートカットリストにアプリケーションやファイルが追加されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする

イージーランチャー画面に登録されます。



・イージーランチャー画面の表示形式を変更するには、[オプション] ボタンをクリックし、表示される画面で設定します。

5 消費電力を節約する

本製品には、パソコン本体を省電力で使うための機能が用意されています。これらの機能を使うと、使用目的や環境に合わせて簡単に省電力設定が行えます。省電力設定を行うことによって、パソコン本体の消費電力を抑え、より長い時間バッテリー駆動でお使いいただけます。

注意 ・CD-RW / CD-R 書き込み時は、省電力設定は行わないでください。
(CD-RW ドライブは別売りです。)

1 スタンバイ機能を使う

スタンバイ機能は、ハードディスク装置や液晶ディスプレイなどの消費電力を最小限に節約する機能です。次に電源を入れると切ったときの状態を再現します。スタンバイ機能を実行すると、液晶ディスプレイの画面が真っ暗になり、電源ランプ  が点滅します。

スタンバイ機能を実行する



メモ

- ・方法 1 から方法 3 を実行しない場合も、一定の時間内 ([電源の管理のプロパティ] で設定) に、タッチパッド、マウス、キーボードからの入力がないときに、自動的にスタンバイ機能が実行されます。ご購入時は、バッテリー駆動で使用中のみこの機能が設定されています。
↳ 電源の管理のプロパティ ↳ 「本節 2 電源を管理する」

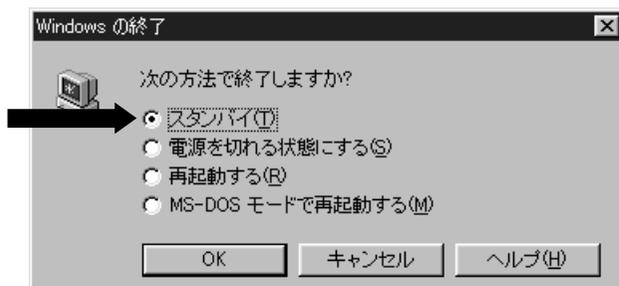
方法 1- [Windows の終了] から実行する

1 [スタート] - [Windows の終了 (U)] を選択する



(表示例)

2 [スタンバイ (T)] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
スタンバイ機能を実行して終了します。



● 方法 2- 電源スイッチから実行する

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

[電源の管理]をダブルクリックする

[詳細]タブの[コンピュータの電源ボタンを押したとき]で[スタンバイ]を選択する

[OK]ボタンを押す

2 電源スイッチを押す

● 方法 3- ディスプレイを閉じたときに実行する

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

[電源の管理]をダブルクリックする

[詳細]タブの[ポータブルコンピュータを閉じたとき]で[スタンバイ]を選択する

[OK]ボタンを押す

2 ディスプレイを閉じる

● スタンバイ状態から通常の状態に戻る

1 電源スイッチを押す

通常の状態に戻るには 30 秒程度かかります。



メモ

・ご購入時には LAN の設定が有効になっているため、起動に時間がかかります。起動時間を短くしたい場合は、[デバイスマネージャ]で LAN の設定を無効にしてください。

☞ 「2 章 1 電源を入れる」

② 電源を管理する

Windows 98 では使用目的や環境に合わせて電源管理に関する設定を行うことができます。[電源の管理] プロパティでは、さまざまな場合に応じて使用環境を記憶し、簡単に変更することができます。

● [電源の管理のプロパティ] を表示する

- 1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [電源の管理] をダブルクリックする



(表示例)

- 3 それぞれのタブで設定し、[OK] ボタンをクリックする
設定が終了したら、設定を有効にするためにシステムを再起動してください。

● [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、複数の電源設定を作成できます。環境が変化したときに電源設定を切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます、快適にご使用いただけます。

[電源設定]

ご使用の環境を選択します。

[システムスタンバイ]

マウス、タッチパッド、キーボードから入力がない場合に、ここで設定した時間後にスタンバイ状態になります。

通常の状態に戻るには、電源スイッチを押します。

☞ スタンバイ機能について ☞ 「本節 1 スタンバイ機能を使う」

[モニタの電源を切る][ハードディスクの電源を切る]

マウス、タッチパッド、キーボードから入力がない場合に、ここで設定した時間後にディスプレイやハードディスク装置の電源が一時的に切れます。

通常の状態に戻るには、マウスやタッチパッドを操作するか、キーを押します。

● [アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったときの、ユーザに通知するためのアラームやメッセージおよび動作を設定します。

● [電源メーター] タブ

バッテリー残量などのバッテリー情報を表示します。

● [詳細] タブ



(表示例)

[アイコンをタスクバーに常に表示する]

チェックすると、電源メーター  や  を常にタスクバーに表示します。

[ポータブルコンピュータを閉じたとき][コンピュータの電源ボタンを押したとき]

ディスプレイを閉じたときと、電源スイッチを押したときの動作を設定します。

シャットダウン	Windowsを終了して、電源を切ります。
休止状態 (ハイバネーション)	電源を切ったときの状態をハードディスクに保存します。 次に電源を入れると、切ったときの状態を再現します。 ☞ 「2章 3 電源を切る」
スタンバイ	ハードディスク装置や液晶ディスプレイなどの消費電力を最小限に節約します。通常の状態に戻るとスタンバイ状態になる前の状態を再現します。 ☞ 「本節 1 スタンバイ機能を使う」
なし	液晶ディスプレイの表示をオフにします。

● [休止状態] タブ

休止状態（ハイバネーション）を使用する / 使用しないを設定します。

[休止状態をサポートする] をチェックしていないと、休止状態（ハイバネーション）は使用できません。

☞ 休止状態（ハイバネーション）の実行方法 ☞ 「2章 3 電源を切る」



お願い

- ・スタンバイ状態から通常の状態に戻るときは、パソコン本体の電源ランプ  が点滅しはじめてから 10 秒以上経ってから操作してください。
また、休止状態（ハイバネーション）から通常の状態に戻るときは、休止状態になってから 10 秒以上経ってから操作してください。
スタンバイ状態 / 休止状態（ハイバネーション）を実行した直後に通常の状態に戻すとシステムに負担がかかり、動作が不安定になることがあります。
- ・使用するアプリケーションの動作状態や、使用する増設機器、周辺機器によっては、アプリケーションが正常に動作しなかったり、スタンバイ状態 / 休止状態（ハイバネーション）から復帰できないことがあります。
この場合はスタンバイ状態 / 休止状態（ハイバネーション）を使用しないでください。
- ・システムの変更作業（ドライバやプリンタ、ネットワークのセットアップなど）をする場合は、スタンバイ機能 / 休止状態（ハイバネーション）を使用しないでください。作業途中でスタンバイ状態 / 休止状態（ハイバネーション）になると、復帰後の動作が不安定になることがあります。
- ・Windows 98 で使用しているときに「コンピュータは、何度か待機状態になり、応答を停止しました。今後、待機状態にならないようにしますか？」と表示された場合は、[いいえ] を選択してください。



メモ

- ・スタンバイや休止状態（ハイバネーション）から通常の状態に戻る場合は、電源スイッチを押してください。

6

BIOS セットアップ

本章では、BIOS セットアッププログラムの使い方と機能について説明します。
BIOS セットアッププログラムを使って、パソコン本体のシステム構成の設定や、
パスワードの登録 / 削除などができます。

1	BIOS セットアップとは.....	120
2	Main(メイン)メニューの詳細	124
3	System Devices(システムデバイス)メニューの詳細 ..	126
4	Security(セキュリティ)メニューの詳細	129
5	Power(パワー)メニューの詳細	131
6	Others(アザーズ)メニューの詳細	132
7	Boot(ブート)メニューの詳細	133
8	Exit(エクジット)メニューの詳細	134

① BIOS セットアップとは

バイオス

BIOS セットアップとは、パスワードやハードディスク、周辺機器の使い方などを本体に設定するプログラムのことです。

BIOS セットアップで設定された情報は、CMOS-RAM と呼ばれる特殊なメモリに保存され、電源を切っても設定した内容が消失しないように内蔵バッテリーで保持されます。1 度 BIOS セットアップを行えば以降は必要ありません。ただし、内蔵バッテリーが消耗した場合は、BIOS セットアップは既定値に戻りますので、設定した内容はメモをとるなどして忘れないようにしてください。



メモ

・ BIOS セットアップ画面は英語表示のみです。日本語での項目 / 説明の表示はありません。

① BIOS セットアップの起動方法

1 電源を入れた直後（起動時）に **F2** キーを押す

起動時に、次の「TOSHIBA」画面が表示されます。目安として、この画面表示中に **F2** キーを押します。



お願い

・ **F2** キーの入力が受け付けられるのは、パソコンの電源を入れてから数秒間です。この時間内に **F2** キーを押さないと、システムが起動します。

BIOS セットアップが起動できなかった場合は、通常の終了操作を行なってパソコン本体の電源を切り、上記の手順 1 をやり直してください。



（表示例）

2 BIOS セットアップの操作方法

● BIOS セットアップ画面について

メニューバー
現在開いているメニューは青文字で表示されます。メニューを移動するには キーを押します。

選択している項目は白文字で表示されます。

[] で囲まれている項目は、設定値を変更することができます。ただし、青色に表示されている項目は、変更できない状態です。

選択している項目の説明が表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility						
Main	System Devices	Security	Power	Others	Boot	Exit
System Time:	[XX:XX:XX]					Item Specific Help
System Date:	[XX/XX/XXXX]					
Floppy Drive:	1.44MB, 3 1/2"					Tab, Shift-Tab, or Enter selects field.
Hard Disk:	XXX XXXXXX					
Quiet Boot:	[Enabled]					
Power on display:	[Auto-selected]					
LCD Display Stretch:	[Enabled]					
System Memory:	640 KB					
Extended Memory:	63 MB					
BIOS Ver.:	0.07A					

F1 Help Select Item F5/F6 Change Values F9 Setup Defaults
Esc Exit Select Menu Enter Select Sub-Menu F10 Save and Exit

● 使用するキーについて

BIOS セットアップでは、タッチパッドやマウスが使用できないため、キーボード上のキーで、メニューや項目の移動、値の入力などを行います。

ここでは、BIOS セットアップで主に使用するキーについて説明します。

、 + キー

BIOS セットアップの説明と操作方法 ([General Help]) を表示します。

画面上下の、表示されていない部分を見るには、、 キーを使います。

[General Help] を閉じるには、もう 1 度 キーまたは + キーを押します。

キー

1 つ前の項目に移動します。

キー

1 つ先の項目に移動します。

キー

1 つ前のメニューを表示します。

キー

1 つ先のメニューを表示します。

PgUp、**Home**キー

メニューの最初の項目に移動します。

PgDn、**End**キー

メニューの最後の項目に移動します。

F5キー

1つ前の項目に移動したり、選択している項目を1つ戻します。

F6、**Space**キー

1つ先の項目に移動したり、選択している項目を1つ進めます。

Enterキー

サブメニューや設定値の一覧を表示したり、設定値の選択をします。

F9キー

BIOS セットアップの全項目を、既定値に戻します (パスワードを除く)。

F9キーを押すと、「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。既定値に戻す場合は、[Yes] を、戻さないでセットアップを続ける場合は [No] を選択します。

F10キー

現在の設定を保存し (CMOS-RAM に書き込み) BIOS セットアップを終了して、システムを起動します。

F10キーを押すと「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。設定を保存して終了する場合は [Yes] を、保存しないでセットアップを続ける場合は [No] を選択します。

Esc、**Alt** + **X**キー

[Exit] メニューを表示します。サブメニュー中では、1つ前の状態に戻したり、1つ前の画面を表示します。

3 BIOS セットアップの内容

BIOS セットアップには次の7つのメニューがあります。

Main (メイン) メニュー

日時や起動時の HDD、FDD、メモリサイズなどを設定または表示します。

System Devices (システムデバイス) メニュー

I/O ポートと拡張機能について設定します。

Security (セキュリティ) メニュー

特定の人だけが本製品を操作するためのパスワードを設定します。

Power (パワー) メニュー

バッテリー駆動時のバッテリー使用方法を設定します。

Others (アザーズ) メニュー

バッテリーアラーム音やシステムビープを設定します。

Boot (ブート) メニュー

パソコンの電源を入れたときに、システムを起動する装置を設定します。

Exit (エクジット) メニュー

BIOS セットアップを終了します。

なお、BIOS セットアップの内容は出荷時期により多少異なる場合があります。

2

Main(メイン)メニューの詳細

BIOS セットアップが起動するとまず、メインメニューが表示されます。メインメニューでは日時の設定、フロッピーディスクドライブ、ハードディスク装置の表示などを行います。

PhoenixBIOS Setup Utility				
Main	System Devices	Security Power Others Boot Exit		
System Time:	[XX:XX:XX]	Item Specific Help		
System Date:	[XX/XX/XXXX]			
Floppy Drive:	1.44MB, 3 1/2"	Tab , Shift-Tab ,or Enter selects field.		
Hard Disk:	XXX XXXXXX			
Quiet Boot:	[Enabled]			
Power on display:	[Auto-selected]			
LCD Display Stretch:	[Enabled]			
System Memory:	640 KB			
Extended Memory:	63 MB			
BIOS Ver.	0.07A			
F1 Help	Select Item		F5/F6 Change Values	F9 Setup Defaults
Esc Exit	Select Menu		Enter Select Sub-Menu	F10 Save and Exit

(注) 画面は一例です。

System Time

時刻 (24 時間単位) を設定します。

[時 : 分 : 秒] の項目移動には、**Enter** キーまたは **Tab** キーを使います。

System Date

年 (西暦) 月日を設定します。

[月 / 日 / 年] の項目移動には、**Enter** キーまたは **Tab** キーを使います。

Floppy Drive

フロッピーディスクドライブのタイプを表示します (表示のみ)。

標準で、[1.44MB, 3 1/2"] タイプのフロッピーディスクドライブについて表示します。

Hard Disk

IDE インタフェース上の装置を表示します (表示のみ)

Quiet Boot

起動中にシステムのテストを行うかどうかを設定します。

システムのテストを省略すると、テストを行うときより短時間で起動します。

- ・ Enabled システムのテストを行う
- ・ Disabled システムのテストを行わない

Power on Display

表示装置を選択します。(Windows 98 では無効)

- ・ Auto-Selected システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイ、接続していないときはパソコン本体の液晶ディスプレイのみに表示する
- ・ Simultaneous 外部ディスプレイとパソコン本体の液晶ディスプレイに同時表示する



メモ

- ・ Windows 98 でこの機能を使用する場合は、ATIのヘルプをご覧ください。

LCD Display Stretch

液晶ディスプレイでの表示形式を選択します。(Windows 98 では無効)

- ・ Disabled ディスプレイ中央に表示する
- ・ Enabled ディスプレイ全体に表示する

System Memory

システムメモリ量を表示します。(表示のみ)

Extended Memory

拡張メモリ量を表示します。(表示のみ)

システムデバイスメニューでは本体のハードウェア関連の設定を行います。



- ・不用意に設定を行うと、Windows が正常に動作しなくなる可能性があります。設定が原因と思われる場合は、**[F9]**キーを押し、1度既定値に戻してやり直してください。

PhoenixBIOS Setup Utility			
Main	System Devices	Security Power Others Boot Exit	
Pointing Device:	[Simultaneous]	Item Specific Help	
Ext. Keyboard "Fn":	[Enabled]		
IDE Controller:	[Both]	If Always Enabled is selected, the internal pointing device is always enabled. If auto Disabled is selected, the internal pointing device is disabled when an external pointing device is conneted with the PS/2 port. However, if no pointing device is connected, the internal pointings device is enabled.	
FDD Controller:	[Enabled]		
Infrared Port:	[Enabled]		
Mode:	[FIR]		
Base I/O address:	[2F8 IRQ3]		
DMA channel:	[DMA 3]		
Parallel port:	[Enabled]		
Mode:	[ECP]		
Base I/O address:	[378]		
Interrupt:	[IRQ 7]		
DMA channel:	[DMA 1]		
F1 Help	Select Item	F5/F6 Change Values	F9 Setup Defaults
Esc Exit	Select Menu	Enter Select Sub-Menu	F10 Save and Exit

(注) 画面は一例です。

Pointing Device

タッチパッドと外部 PS/2 マウスについて設定を行います。

- ・ Auto-Selected タッチパッドか PS/2 マウスのどちらか 1 つを使用する PS/2 マウスを接続している場合は、PS/2 マウスのみ使用することができます。PS/2 マウスを接続していない場合は、タッチパッドを使用することができます。
- ・ Simultaneous タッチパッドと PS/2 マウスを同時に使用する

Ext. Keyboard "Fn"

[Ctrl] + **[Alt]** キーが **[Fn]** キーと同じ働きをするよう設定します。

- ・ Enabled 使用する
- ・ Disabled 使用しない

IDE Controller

IDE 装置の設定を行います。

- ・ Both 標準 IDE 装置、増設 IDE 装置両方を使用する
- ・ Primary 標準 IDE 装置のみ使用する
- ・ Disabled 使用しない

FDD Controller

フロッピーディスクドライブの設定を行います。

- Disabled 使用しない
- Enabled 使用する

Infrared Port

赤外線ポートの設定を行います。

- Disabled 使用しない
- Enabled 使用する
- Auto 自動検出する

Mode

[Infrared Port] で [Enabled] または [Auto] を選択すると表示されます。

- SIR / FIR / ASK-IR

Base I/O address

[Infrared Port] で [Enabled] を選択すると表示されます。

ベース I/O アドレスを設定します。

[Parallel port] の [Base I/O address] と同じ値に設定しないでください。

- 3F8 IRQ4 / 2F8 IRQ3 / 3E8 IRQ4 / 2E8 IRQ3

DMA channel

[Infrared Port] を [Enabled] に設定し、[Mode] で [FIR] を選択すると表示されます。

[Parallel port] の [DMA channel] と同じ値に設定しないでください。

- DMA 0 / DMA 1 / DMA 3

Parallel port

PRT コネクタの設定を行います。

- Disabled 使用しない
- Enabled 使用する
- Auto 自動検出する

Mode

[Parallel Port] で [Enabled] を選択すると表示されます。

- Bi-directional 双方向モードを使用する周辺機器を使用する
- EPP EPP 規格の周辺機器を使用する
- ECP ECP 規格の周辺機器を使用する
- Normal Mode 出力専用モードを使用する周辺機器を使用する

Base I/O address

[Parallel Port] で [Enabled] を選択すると表示されます。

[Infrared Port] の [Base I/O address] と同じ値に設定しないでください。

- ・ 378 / 278 / 3BC

Interrupt

[Parallel Port] で [Enabled] を選択すると表示されます。

- ・ IRQ 5 / IRQ 7

DMA channel

[Parallel Port] を [Enabled] に設定し、[Mode] で [ECP] を選択すると表示されます。

[Infrared Port] の [DMA channel] と同じ値に設定しないでください。

- ・ DMA 0 / DMA 1 / DMA 3

セキュリティメニューでは、パソコン本体にパスワードを設定して、他のひとがパソコンを使用したり、設定を変えたりできないようにします。

電源を入れたときにパスワードを正しく入力しないとパソコン本体は使用できません。



お願い

- ・パスワードを登録する場合は、忘れないように必ずパスワードを控えてください。
- ・パスワードは表示されませんので確認することはできません。
- ・パスワードを忘れてしまった場合は、東芝 PC 集中修理センタにパスワードの解除をご依頼ください。

パスワードの解除を東芝 PC 集中修理センタにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

PhoenixBIOS Setup Utility					
Main	System Devices	Security	Power	Others	Boot Exit
User Password:	Clear				Item Specific Help
Set User Password	[Enter]				Supervisor Password controls access to the setup utility.
Password On Boot	[Disabled]				
F1 Help	Select Item	F5/F6 Change Values	F9 Setup Defaults		
Esc Exit	Select Menu	Enter Select Sub-Menu	F10 Save and Exit		

(注) 画面は一例です。

User Password

ユーザパスワードが設定されているかどうかを表示します（表示のみ）。

- ・ Clear ユーザパスワードが設定されていない
- ・ Set ユーザパスワードが設定されている

Set User Password

パスワードには 8 文字までのアルファベットまたは数字（半角英数字）が使用できます。

符号や漢字、ひらがななどは使用できません。パスワードの入力を間違えた場合は **BackSpace** キーを押して入力ミスした文字を削除します。

パスワードを設定するとき

[Set User Password] の [Enter] にカーソルを合わせ、**Enter** キーを押す
[Set User Password] 画面が表示されます。

[Enter New Password] にパスワードを入力し、**Enter** キーを押す

[Confirm New Password] に同じパスワードを入力し、**Enter** キーを押す

[Setup Notice] 画面が表示されます。

Enter キーを押す

パスワードが設定され、[User Password] に [Set] と表示されます。

パスワードを変更するとき

[Set User Password] の [Enter] にカーソルを合わせ、**Enter** キーを押す
[Set User Password] 画面が表示されます。

[Enter Current Password] に現在設定されているパスワードを入力し、
Enter キーを押す

[Enter New Password] に新しいパスワードを入力し、**Enter** キーを押す

[Confirm New Password] に新しいパスワードをもう一度入力し、**Enter**
キーを押す

[Setup Notice] 画面が表示されます。

Enter キーを押す

パスワードが変更されます。

パスワードを削除するとき

[Set User Password] の [Enter] にカーソルを合わせ、**Enter** キーを押す
[Set User Password] 画面が表示されます。

[Enter Current Password] に現在設定されているパスワードを入力し、
Enter キーを押す

Enter キーを 2 回押す

[Enter New Password] や [Confirm New Password] にはパスワードを
入力しないでください。

[Setup Notice] 画面が表示されます。

Enter キーを押す

パスワードが削除され、[User Password] に [Clear] と表示されます。

Password On Boot

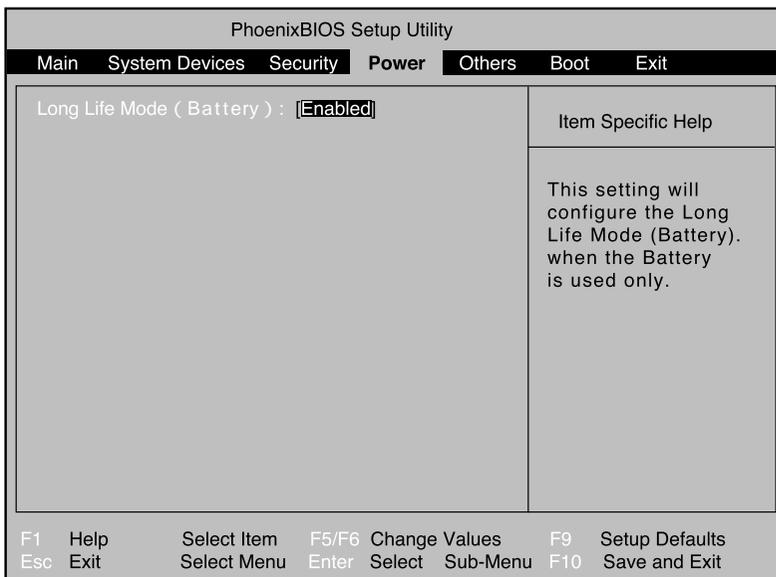
ユーザパスワードを設定した場合、システムが起動する前にパスワードを入力するかどうかを設定します。

パスワードを設定しても [Enabled] を選択しないと、システム起動前のパスワード入力機能を使用できません。

- ・ Disabled 設定しない
- ・ Enabled 設定する

5 Power(パワー)メニューの詳細

バッテリー駆動時のバッテリー使用方法を設定します。



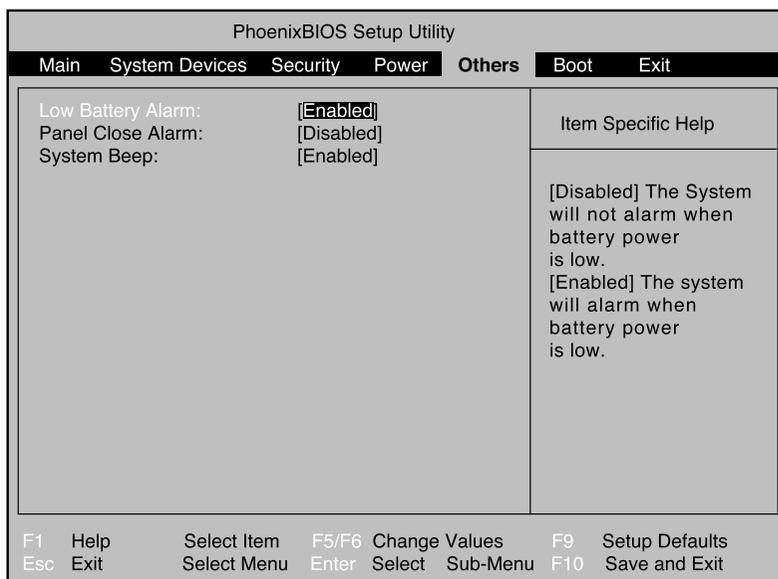
(注) 画面は一例です。

Long Life Mode (Battery)

バッテリーの使用方法を設定します。

- Disabled システムの処理速度を優先してバッテリーを使用する
- Enabled バッテリーの駆動時間を延ばす
ただし、システムの処理速度は低下します。

パソコンを操作するときの警告音を設定します。



(注) 画面は一例です。

Low Battery Alarm

バッテリー残量が低下したときに鳴る警告音を設定します。

- ・ Disabled 使用しない
- ・ Enabled 使用する

Panel Close Alarm

ディスプレイを閉じたときに鳴る音を設定します。

- ・ Disabled 使用しない
- ・ Enabled 使用する

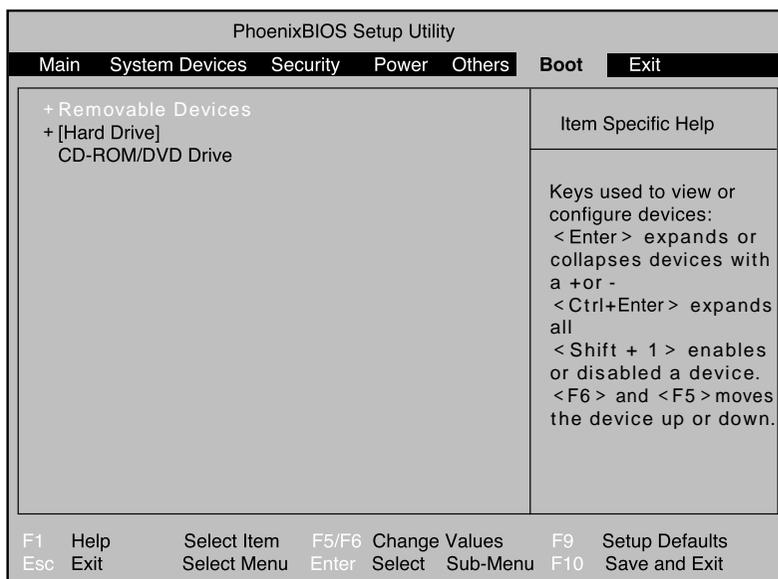
System Beep

パソコン起動時のビーブ音を設定します。

- ・ Disabled 使用しない
- ・ Enabled 使用する

7 Boot(ブート)メニューの詳細

パソコンが起動する際の設定を行います。



(注) 画面は一例です。

Removable Devices | Hard Drive | CD-ROM/DVD Drive

パソコンの電源を入れたときに、システムを読み込む装置の優先順位を設定します。項目を選択し、**F5**と**F6**キーで順番を入れ替えます。

F5キーを押すと、選択(反転表示)されている装置の順位が1つ下がります。

F6キーを押すと、選択(反転表示)されている装置の順位が1つ上がります。

- ・ Removable Devices フロッピーディスクドライブ / スーパーディスクドライブ
- ・ Hard Drive ハードディスク装置
- ・ CD-ROM/DVD Drive CD-ROM / CD-RW / DVD-ROM ドライブ

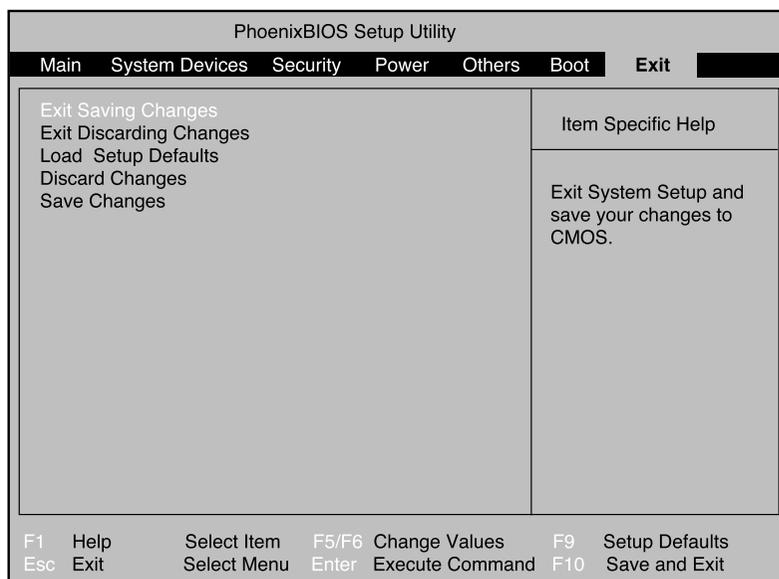


メモ

- ・ フロッピーディスクで起動するには、そのフロッピーディスクが起動専用でフォーマットされている必要があります。
- ・ CD-ROM / CD-RW / DVD-ROM ドライブから起動するには、起動可能なCD(ブータブルCD)が必要です。

BIOS セットアップを終了します。

BIOS セットアップの設定を既定値の設定や、変更を加える前の設定に戻す項目があります。



(注) 画面は一例です。

Exit メニューの Exit Saving Changes が **[F10]** キーを押して、BIOS セットアップ設定を CMOS-RAM に書き込まないと、BIOS セットアップの内容は更新されません。

Exit Saving Changes

変更した設定を、保存 (CMOS-RAM に書き込み) して、BIOS セットアップを終了します。

Exit Discarding Changes

変更した設定を、保存しない (BIOS セットアップを最後に保存したときの状態) で終了します。

Load Setup Defaults

BIOS セットアップの内容を、既定値にします。終了はしません。

Discard Changes

変更前の設定 (BIOS セットアップを最後に保存したときの状態) に戻します。終了はしません。

Save Changes

変更した設定を、保存 (CMOS-RAM に書き込み) します。終了はしません。